

波々鳥

第 15 号

1 9 9 4



室蘭市医師親交会誌

波ノ鳥

第 15 号 1 9 9 4

室蘭市医師親交会誌

目次

表紙 チャラツナイ 加藤 治良

カット 竹内 隆一

随想

幼児性……心のネオテニー……………山本 俊一……………1

旅の終着駅はインド……………米澤 堡……………5

祖父 吉井正次のことなど……………吉井 正仁……………7

たかが一横指、されど一横指……………藤兼 和男……………10

こんな情景……………加藤 治良……………13

座談会

覆面座談会 ふたたび世相を斬る（差別そしてDNA）……………14

飯島三男・山本俊一

大川原修二・西里弘二

編集委員（加藤・村井・澤山・上田・大久保・三村・斎藤）

事務局（高橋・小杉）

あんらくいす

22

柘植先生の思い出.....遠藤孝二郎

柘植重夫先生の追憶.....鴨井 清一

柘植重夫先生を偲ぶ.....大辻祐太郎

佐藤善弘先生を偲ぶ.....大辻祐太郎

故佐藤医師会長を偲んで.....高橋 昭三

ゼンコー先生と.....大久保洋平

故長田廣先生と私.....大岩 昌生

小咄医者.....加藤 治良

美はしきエスパニョーラ.....上田 智夫

親交会旅行会ゴルフ.....安藤 修一

医師親交会親睦旅行.....小杉 修一

新会員・自己紹介

40

高橋基夫・堀尾昌司

親交会のおもな行事

編集室へのお便り

42

会員異動

編集後記

44

斎藤甲斐之助

幼児性

……心のネオテニー……

山本俊一

(山本内科医院)

どんな大人でも心の中に子供が住んでいる、といわれるが、このごろ私はまったくそのとおりだと思っている。人間の身体はネオテニーによるというが、心もネオテニーの状態にあるのではないかと考えている。ネオテニーとは、大辞林によると

neoteny 幼形成熟…動物が幼生形のままで生殖巣が成熟して繁殖する現象。メキシコサンショウウオ・イソギンチャク類・クラゲ類に見られる。

とあり、メキシコサンショウウオ（ウーパールーパーはこれの白子）は鰓を残したまま成熟する。現代人の体形はネオテニーによる、と何かの本で読んだことがある。大きな頭と垂直な姿勢は、猿の赤ん坊の体形に似ており、人間は猿に近かった遠い先祖の赤ん坊の体形のまま成人するのだという。また、ペットや家畜の体形の変化、例えば犬や豚の頭が丸いのも狼や猪の子供の体形が残ったネオテニーのためであるという。

こんなことを考えるようになったのは、開業して赤ん坊たちの人見知りに悩まされたからである。生後四、五ヶ月、風

邪などで初対面したときの赤ん坊たちはほんとうに可愛らしい。その同じ子に九ヶ月頃再対面すると、こんどは私を恐れてひどく泣き喚く。しごく、あたりまえの情景だが、診療上おおいに支障をきたす。がしかし、いろいろな赤ん坊たちのこのような振る舞いを経験しているうちに、いつのまにか、この人見知りというものは、赤ん坊の知的発達いわゆる知恵のついた結果なのか、それとも心に何か変化が起きたためだろうか、と考えるようになっていた。いまでは、知恵の方ではなく、心、いわゆる感性や欲求の方に何らかの変化が起きるためだろうと考えている。

人間の赤ん坊は無能な存在である。生き残るために必要な本能的行動はほとんど持っていない。しかし、人見知りの始まる時期は、食べ物をつかんだり這ったり、自力の行動が可能になり始める時期である。また、赤ん坊に、可愛いね、と言ってくれる身近な大人たちの顔を一通り見覚えてしまったころである。無能な彼らが生き残るすべてを学び始めなければならぬ時期でもある。このとき、赤ん坊たちの心中に何か新しい変化が起きてくるのではないだろうか、と私は思う。このときの心境の変化を一人の赤ん坊に聞いてみたら、こんな言葉が返ってくるようだ。

「どおやら世の中面白いことがいっぱいありそうだ。しかし、ボクは何にもできないし、世の中怖い物もたくさんあるようだ。これからボクはママにくっついて、いつもママに守ってもらい、何でもママのする通りにしていこう。近所の小父さん小母さんたちは、みんな好人ばかりのようだけど、なぜだか、このごろ知らない大人が怖くなってきた。」

お愛想されれば、誰にでもニコニコするお人好しな赤ん坊たちが人見知りするようになるためには、少なくとも、このていどの心境の変化を必要とする。とても、ひとりでに知恵がついて、このような結論にいたるとは考えにくい。

なぜ未知の大人を恐れるのかについて、つぎのような場面を想像してみた。大昔われわれの先祖は限られた少人数の群れで生活していたと考えてよいだろう。人見知り期のころになると、赤ん坊たちは身近の大人たちの顔は全て見覚えてしまい、このあと初めて出会う大人は殆ど群れ外の余所ものということになるのではないか。赤ん坊たちにとって、群れ内の大人たちは特別の存在であり、いくら愛想がよくても、余所ものには、まず警戒するようになる、ということではないだろうか。

人見知りと同時にみられる分離不安は、どんな物事が危険かということを母親から学ぶために非常に有効な態度だと思う。生きるためには、飢えや渇きなどの生理的欲求を充たすことのほかに、危険から身を守るという大事なことがある。危険には、軽い怪我など自分で痛い目にあって知る小さな危険と、外敵に襲われるなどの大きな危険がある。大きな危険から身を守るためには、自分で一々経験してからでは手遅れになるから、いつも母親から離れないで、守ってもらいながら、そのときどきに母親の行動を学べばよい。ここで学ぶということは、模倣と同じ意味である。

成長して仲間遊びをするようになると、友達の模倣をするようになるが、この友達の模倣と母親への模倣とは種々な点で異なるものだと思う。母親への模倣は赤ん坊本人（長じて

子供期全体）の好き嫌いに関係なく、無批判的絶対的でありそっくり模倣できれば、自立しても生き抜くことができるという、生存のために必要な最小限のワンセットの行動の模倣である。それに対し、友達の模倣は、うまそうな食べ物とか楽しそうな遊びとか、本人が、良いなあと感じる個々の行動の選択的な模倣である。母親への模倣は、無能力な赤ん坊が本能の代わりに獲得する行動である、といえないだろうか。

動物の世界を見ても、生後すぐに親から離され、人の手で育てられると野生に戻れない種が多くある。哺乳類や鳥類のしかも高等なものほどその傾向がつよい。この場合も、人間と同様に、自立の時期までに母親への模倣が欠かせないが、それができなかったためといえるのではないだろうか。とすれば、この種の高等な動物では、生き抜くために必要な最小限のワンセットの行動は、本能+母親への模倣、といえるだろう。

母親への模倣は成長するにつれて消えて行くのがふつうである。成長すると親から独立する動物では、親離れる時点で母親への模倣は消滅するとみてよいだろう。

はなしによれば、ファミリーレストランなどでは、従業員教育のために手引書マニュアルを使用しているそうだ。その本には、かくかくのばあい、かくかくすべし、と必要な行動が具体的に指示してある。それに従いさえすれば、がさつな若者でも、とりあえず一人前のウェイターとして勤まる仕組みになっている。本能だけで生きる動物は、たとえてみれば生まれながらにそのような生存のためのマニュアルを脳の中に持っている、といってもよいだろう。それに対し、人の手

で育てられ野生に戻れないような高等な動物では、誕生時そのマニユアルの一部が空欄になっていて、例えば、食の項目はあるがその下の何をどうして食べるかの処は空欄になっていて、母親に養われている間に、母親を模倣してその空欄を埋めれば（刷り込めば）自立のためのマニユアルは完成する。一般的に、高等で頭のよい環境適応能力のつよい動物は、一生の間に行動パターンも変わりやすい。だからその子供たちはその変わりやすい部分を空欄にしたままで誕生し、生後その空欄に母親の行動を刷り込めば、生き抜くために最新最適のマニユアルを手に入れることができる。高等な動物になればなるほど、そのマニユアルも厚くなり、空欄も多くなると考えてよいだろう。空欄が多くなれば、それを出来るだけ早く完全に埋める必要が生じる。このようなばあい、母親は命令し子は服従する、という強制的な形をとれば効果的であろうし、また実際そのような仕組みになっているものと思う。

母親への模倣は、たんに学習にすぎないと思われるかもしれない。しかし、その学習の動機づけという点に注目してみると、母親の命令に服従してまでも母親とそっくりの行動を獲得したいという特別の欲求があるとみてよいだろう。この服従の欲求は、自由に行動したいという動物の本性に矛盾する心だと思う。だから、子供が成熟し自立するとき、母親から必要な行動を模倣し終えたときには消えてしまう。高等な動物に見られるこの欲求は、蛙のおたまじゃくしの鰓のように、子供の間だけにみられる心である。これを子供の心、幼児性と呼んでみてもよいのではないだろうか。

母親というものを子供の側からみれば、安全と食物をあた

えてくれる、優しい存在である。だから、幼児性の強い高等な動物の子供たちは、保護してくれ食物を与えてくれる存在が人間であっても、母親にたいするように、人間に服従するのだろう。

人間に飼われても幼いうちはよく馴れるが成長すると逃げ出して野性にかえる鳥や獣はふつうにみられる。これにたいし、犬のように餌をもらい一生人間に服従するものもある。犬が飼い主によく馴れるということは幼児性がつよい証拠と思うが、成熟後も服従するのはなぜだろうか。テレビの動物番組で、狐の子別れの儀式をみたことがある。生後一年たらずで、母狐はわが子を巣から追い出す。別れがたそうな子狐に噛みついてまでも自分のテリトリーから追い出してしまうこの情景をみると、自由の欲求に矛盾するとはいえ、安全や食物を保証される子供時代というものは、この種の高等な動物にとって、なかなか捨てがたい魅力があるらしい。この狐のように多少の自由を失ってまでも、安全と食物に未練を残す動物が人間に飼育されれば、成熟後も人間に依存する生活を続けるだろう。また、このような動物がペットや家畜として代々飼育されると、人為的な淘汰の結果、人間に服従しやすいものほど、幼児性の強いものほど残るだろう。とすれば、犬や豚のネオテニーとは、かれらに先ず幼児性の強化が生じ、ついで身体のネオテニーが生じる、つまり、心の幼児化が身体の幼児化をひき起こすということではないだろうか。

自然界で、子狐のように親離れしたがない動物が、成熟後も母親と一緒に行動する生活をえらべば、この動物には成

熟後も幼児性が残ると考えてよいだろう。なぜなら、この種の動物はみんな頭がよいから、経験をつんだ母親に従うことは生存のために有利とみなせるからである。これが発展すれば、何世代かの母子関係を核とする上下の秩序がはつきりした群れができるだろう。象の群れのリーダーは年老いた経験ゆたかな雌象だそう。狼の群れはボスに絶対服従することでも知られている。ということは、狼はもとも成熟後も幼児性がつよく残っているためだろう。その幼児性が人間に飼われることにより強化されて犬になってしまったのだろう。

よく、人間は矛盾のかたまりといわれるが、狼や犬にも矛盾した欲求があるのではないだろうか。かれらの行動をみると、好きなように自由に振る舞いたい、食と安全を保証してくれるボスには絶対服従しても生き延びたい、服従するよりはボスになりたい、という互いに矛盾する欲求があつて、それらがうまく噛みあっているから秩序ある群れができるのではないかと思われる。また、成犬になつてからも仰向けになつて腹をさらし主人に甘える姿をみていると、そのときの犬は子犬そのままの心の状態にあるのではないかと思われる。

これまでをまとめてみれば、本能的行動は固定的で環境の変化に適応し難い。この欠点を補うために、頭の良い動物では、子供の間に本能的行動の一部を母親からの模倣に置き換えることによつて環境に最適の行動を獲得できるようになつたのではないだろうか。この服従してまでも母親を模倣したという心を子供の心、幼児性とよんでみた。またこのような動物が群れ生活を選べば、成熟後も幼児性に残り（心のネオテニー）、それによつて、秩序ある群れができあがるので

はないだろうか。心のネオテニーは、頭が良くて群れ生活をする動物たちにひろく見られる現象といえるのではないだろうか。人間もこの仲間ではないだろうか。

先日、波久鳥編集委員の諸先生と酒席を共にする機会があつた。その雑談の折ネオテニーなど持ち出してしまい、大久保先生にそれについて何か書くようにいわれた。うろ覚え、覚えちがいからくる誤りの点も多いと思うが、そこはお許しただいて、赤ん坊の人見知りからはじまる風が吹けば桶屋式の連想か、ジグソーパズル式の遊想とおもつて読んで頂ければさいわいである。



旅の終着駅はインド

米澤 堡

(米澤医院)

アジア圏一應一巡二巡し、今は専らインドに魅せられ、毎年幾度か、故郷に戻る心境で通っています。インドは不潔、カースト制度、貧富の差云々で、混沌として不可解な国との既成概念で、毛嫌いな人が多いようですが、考えを改めて欲しいと思います。目下円高で猫も杓子も欧州やアメリカ等の先進国に渡航しているようですが、私思うに一樣に立派で綺麗だと云う丈けだろうと偏見を持っています。昔から日本では唐（大唐）天竺（インド）と言つて、特に天竺は最高の文明文化国家とみなし、近代は非暴力のマハトマ・ガンジー、教育者で愛の詩人であるタゴール等数多くの偉人を輩出している国で、然も未開から近代化まで混在し、興味津々の国です。

三々四回インド旅行に加わる内に、東京に日印協会がある事を知り、猶を協会の盲腸的存在の「インドの魅力を発掘する会」企画のインド旅行に参加、三度ホームステイに恵まれました。現在の日印協会会長は禿曾根元首相の子分で政治家の桜内禿ちゃんです。平協会員の前には現れないそうです。インドには中都市以上に日印協会が十数ヶ所あり、会長は学校長、大学教授、実業家等で今迄お会い出来た方々は、概ね容貌を見、発言を聞いて、夫々立派な人物に思われまし

た。

扱てインドの事を書くに当たり、私はインド研究の学者でもなく、文筆家でもないのです、広大なインド亜大陸、混沌とし乍も、自然と調和を保っている国を系統だつて記述する事は出来ません。記述するに当つて、頭に浮かんだ事を断片的に書く事を、最初に断つて置きます。

嘗て駅弁大学の助教授と同室となつた。女房は薬剤師との事で持薬はわか素。ホテルはマハラジャの本館から離れた賓客を迎える立派な建物、部屋は四十疊位の広さでした。彼は夕食のインド料理が美味しくて鱈腹食ビールも痛飲したらしく、夜中に何度もトイレに通い、ゲーゲー、ピーピーと嘔吐、下痢で参つて了つた。すっかり意気消沈して、明日デリーに戻り日本に帰ると言つていた。慌てしやんすな其処尻の穴云々と元氣づけてやり、翌朝からミネラルウォーターと小食させた所調子よくなり、旅行を完了しました。渡印者は大抵一度は下痢嘔吐を経験するもので、インド旅行の通過儀礼と思えばいいのです。然し偶には消化器管の傳染病もあるので要注意、此んな人が日本に帰つてからインドの悪口を言い触らすかと思うと至極残念です。

インドは不潔と言われるが、先ず塵埃が少ない。ダンボールの切れ端も古新聞の端切れも牛や野羊が拾ひ食いし、形ある不用品は総てスラム街の建材に利用されている。偶にはスラム街の迷路に色鮮やかなサリーを着た若い女性を見る事もあり、驚きである。辺鄙な所の少数民族の室内には、ビールやコーラの空き罐を棚に並べたり、細工して容器に利用している。朝早く友人と二人でオートリキシャに乗ると近道して

貧乏住宅の細い路を通るが、路の芥を掃き集め、いずれ自然に還元される物ばかり、その後は打ち水し、家の外壁も拭き清め、すがすがしい気分になります。

勿論子供の乞食も澤山居るが、親子代々乞食が自分達の職業と思ひ、何等卑屈な目をしてない。涼しげな瞳をしている。職種も種々雑多数える事も出来ない。

印日協会の家に二晩ホームステイした折、三階建て屋上に広いベランダの建物で、吾々に夫婦の寝室でも何処でも入つてい、と言われました。日本では考えられますか？家族は大学に通う男の子一人と、毛艶のいい、大型犬のドーベルマン犬、食事は菜食主義だから犬も勿論菜食で栄養満点です。

インド料理の豆と牛乳で蛋白質が充分と考えられます。ジャイナ教徒の家にホームステイした時、此処の主人とテーブルを挟んで食事をした時バナナの葉が食器で、奥さんが料理をその上に運んで呉れる。主人は葉脈に沿った所にも食物残渣がなく、食事前のきれいな葉と同じで、私も真似たが問題にもなりません。食事の作法はこうある可きものと感銘しました。此処の家族も老父母と主人夫婦、子供は大卒の男子、大学に通っている男子で知識階級は一般に多産ではない様でした。

物価は日本の十分の一乃至百分の一で、朝早く友人と二人で民宿から出て、プネの大きな野菜マーケットに行った時、カリフラワー五個で一ルピー（当時一ルピーは四円）又専用バスで移動した時友人がモンキーバナナ一茎買った時一房に十数個着いている房が一茎に十数個着いて居るのが僅か二十ルピー、又今年三月グジャラート州の田舎道で私が求めたモ

ンキーバナナは僅か十ルピー（円高で一ルピーは三円三十銭）でした。非力の私には持ち上がらず、バスの中まで運んで貰いました。店で買い物する時も交渉次第で、半値になる。日本では定価で支払い、レシートを受け取り、それでお仕舞い。インドの買物は途中経過の遺り取りで本当に買物したなとの喜びがある。

インド亜大陸には何千何百のインド教寺院がある。高さ百米乃至二百米の彫刻された石組の建造物で、構築する時の動力は総て人力のみ、築後千年二千年も稀ではない。翻つて東京辺りの五十階の高層ビルは鉄筋コンクリートで、建てる時の動力は石油資源の浪費で、然も耐用年限は恐らく百年未満でしょう。民家にしても日本ではプロイラ飼育のゲージの様な十数層の建物で、住民は隣の人は何する人ぞも知らぬそう。ボンベイの郊外に行くときと低地に十数軒にも續くスラム街があり住人は総て大地に立つて居る。その中で同種族の者はお互いに助け合っているようだ。いずれが人間性ゆたかな生活かを考えさせられる。

廿一世紀には先進国はインドから学ぶ可き事が多いのではないかと予感します。

話変わって今年十二月三十日から四日間インド全州から工芸美術品、及び骨董店が二千軒出店しクラフト・フェステバルが開催されます。関心のある方は此の際渡印してみませんか？

思いつくままの下書き原稿まだまだありますが、皆さんの迷惑を思い、そろそろ中止にします。

最後に或文献に依ると突飛な慣習のある少数民族のアウト

カーストの事を書き、筆を擱きます。娘が月の物があるのに、結婚前に不幸にして死んだ時、親御さん達は娘があゝの世で淋しい思いをするのではないかと考え大枚を叩いて男を探し、屍姦をして貰うそうです。悪口雑言妄言多謝

(文責筆者)

祖父吉井正次のことなど

吉井 正 仁

(愛生病院)

平成三年八月三木会(産婦人科医会)三十周年記念誌を刊行させて頂いたが、その中で私の祖父、正次についてその概略を記した。主として人物像を主とした記録ではあったが、明治二十九年済生学舎の頃の経年記録が、云って見ると二三のウィーク・ポイントであった。札幌の宮下舜一氏(私と同期生)より「君の祖父の正次さんは、大正十三年長万部に在住し、昭和二年に伊達町に転住したという記録がある」と知らせて下さった。いくつかのウィーク・ポイントが埋まることとなり、誠に有難いことである。宮下氏には改めて御礼申し上げる。

祖父正次は広島県山県郡安野において、吉井彦右衛門の次男として明治九年八月十二日に生まれた。家は代々大庄屋役を勤め、父彦右衛門の時より医師をも業としていた。正次は

父と同じく医師になるべく、神戸中学校卒業後、明治二十九年済生学舎に学び、明治三十二年医術開業後期試験に合格、医師の免許を得た。その後東京順天堂医院、神戸検疫所などに勤めていたが、日露戦争勃発により第十一師団付軍医として、旅順、奉天方面に従軍し、明治三十九年二月に凱旋した同年三月、代々広島藩剣術指南役を勤めていた梶川家長男襄一の娘、春子と結婚、考えるところあつて知人を介して、明治四十一年一月北海道虻田郡真狩村に渡道し開業した。

その当時の真狩村は村誌によると「地勢西南に展開し、羊蹄の霊峰北端に屹立し、四囲をめぐらすに溪流を以てし、陽気宏空に透徹、水は飲用に適し禾穀豊饒、香魚の腹に砂なく……」と、まるで桃源郷にも似た表現で誌されている。ともあれ自然的天恵にめぐまれ、伝染病などかつてなく、病氣らしい病氣も極めて少なかったらしい。医師としては老衰者を看とるか、小外科の治療ぐらいで、たまに難産で鉗子をかけに出かける位のものであった。正次はそんな環境を心地よく感じていたのか、はた又、北辺の僻地医として献身すべく、悲壮な覚悟でやって来たものの、事志しに反し、徒らに腕を撫していたのか、そのあたりのことは判らない。村誌にも「斯く天恵に安んずるの結果は個人の衛生思想を欠如し、公共の設備を弛緩ならしむる傾向あるは、まことに遺憾とする所なり」とある。事実、真狩村も本州方面からの入植者もしだいに増え、その後腸チフスなどが発生し、村中大恐慌を来したことなどが村誌に記されている。とはいえ、大体は暇な日常で、村医を勤めるかたわら郷軍人会とか、近辺の衛生講演会などに精をだしていたらしい。

真狩在住はそんな訳で、結構居心地も良かったのであろう、約二十年間居住していたが、その後大正十三年（昭和二年）で（宮下舜一氏より平成三年八月四日にお知らせ頂いた）長万部に居住し、昭和二年噴火湾に面した伊達町（現、伊達市）に居を移した。

昭和十九年一月、郊外の関内（せきない）方面に往診し、「寒い、寒い」と言いながら帰宅後発熱、急性肺炎で同月二十日六十九才で他界した。

その頃の化学療法剤は、アジロブロンとかトリアノンなどの初期のサルファ剤で一、二m^lの筋注射のみであり、ペニシリンはその翌年末から、進駐軍放出（？）としてそろそろ出廻りはじめた。

私の母は、一人娘で、父は一族の澄谷家からの養子である。父は広島中学を出て、九州福岡の明治専門学校工業科に在学中であった。養子縁組の話がまとまり、父は祖父正次の跡を継がされることになり、同校卒業後、東北帝大医学部に入学させられた。しかし父には医学は性に合わず、翌年ひそかに工学部に転入し、大正十三年に同学部を卒業した。医師になったとばかり喜んでいた祖父はいたく慨歎するとともに「それならお前の子供を必ず医者にせよ」と約束させられたらしい。

父は、その後札幌に居住、北海道工業試験場に勤務し、昭和十一年樺太西海岸内幌炭山に赴任し、石炭低温乾溜の仕事をしていたが、昭和二十二年引揚げて来て、文化炭工業なる会社を設立したが、根が純粹な技術者でもあり、やがて経営も行詰まり解散した。その後父のみ本州方面の旧友を頼って

離道したが、再び帰ってくることはなかった。その父も昭和五十四年六月肺癌のため四日市市で他界、母も子宮癌で昭和三十二年五月室蘭で他界した。

祖父の学んだ済生学舎というのは、言ってみれば我が国の私立医大の元祖のようなもので、明治七年に制定された医制（医事法）による医術開業試験の予備校のようなものであった。長崎医学学校長を退官した長谷川泰が、明治九年（一八七六年）に東京本郷に設立したもので、満三年で卒業する仕組みになっていたが、医術開業試験に合格しないうちに卒業といっても意味がなく、落後者も多かった。明治三十六年（一九〇三年）に廃校になるまで、入学者二万一千四〇〇人余りのうち、九、六〇〇人が医術開業試験に合格している。吉岡弥生、野口英世などが同学舎出身である。済生学舎廃校が契機となって、現在の東京医大、日本医大、東京女子医大などが設立されるに至った。

おもしろいことに、祖父が入学した明治二十九年野口英世も済生学舎に入学しており、既に前期試験に合格していた野口英世は翌年十月に後期試験にも合格、祖父はその二年後に前期試験に合格している。どの程度お互いの交流があったのかは判らないが、祖父が合格後、神戸検疫所検疫官補になった明治三十三年に、同じく野口も横浜検疫所の検疫官補になっており、順天堂医院に勤めていたその頃に野口も順天堂医院に勤めていたようで、記録にはないが、ある程度の交友関係があったようにも想像される。祖父が生きているうちにそんな話を聞いていれば、意外に興味ある内輪話も聞けたかもしれない。

もう十年も前になろうか、萩、津和野あたりはかねてから行つてみたいと思つていたが、なかなか機会がなく、広島の本家で、津和野に先祖の城があると教えられて、「行つてみたい」が「行かねばならぬ」といつた何か義務感みたいな気持ちになつていた挙句の旅行であつた。

先祖の地、津和野は萩よりもずっと小さな城下町で、山あいの津和野川に沿つてひなびた町並みが続き、白壁の塀に沿つて堀割があり、赤白色とりどりの鯉が群れをなして泳いでいた。この鯉はもともと領主の意向で、非常食用に飼われていたらしいが、一度も食用とすることはなかったという。時の流れを忘れたかのように穏やかな歴史を経たのであろう。

ツワブキの咲く野というところから名付けられた津和野は、森陽外の生地でもあるが、明治の哲学者でもあり、日本の哲学用語を定めたり、軍人勅諭を起草させたりしたことで有名な西周（にしあまね）の故郷でもある。

まちの西側に城山があり、その山頂に旅の目的の一つであつた先祖の城、津和野城がある。三本松城、落城ともいわれたこの城は典型的な山城であつたが、明治七年に解体され、今は石垣の城砦を残すのみとなつている。

弘安五年（一二八二年）元寇警備のため、能登から石見に下つた吉見頼行が三十年の歳月を費やして築城し、吉見十四代三百二十年、千姫との悲恋物語りの主人公、坂崎出羽守治世十六年、その後亀井十一代によつて、解体されるまで六百年にわたり、その威容を誇つていた。

吉見十四代の広行が関ヶ原役で東軍に敗れ、津和野を退転、萩を経て広島奥に隠居、この後吉井、澄谷、吉崎の三家に

分立して、家系上吉見氏は断絶してしまつた。

思えば、八百年前の範頼（源頼朝の弟、頼朝に殺害される一一九三年）以来、幾多の波乱を経て、その末裔が初めて訪れる祖先の地。往時を偲び、懐かしくも飽かず眺めつくしたことであつた。帰路青野山の山路を登るバスの窓ごしに、次第に遠くなる津和野、何時の日再びこの地を訪れることができるか。眼下の町並みをへだてて、暮れなずむ山頂の古城砦が山の背に消えるまで、何かいい知れぬ熱い思いを抱きながら、目離れせず眺め入つていたことであつた。



たかが一横指、 されど一横指

(柘植先生の想い出より)

藤 兼 和 男

(ふじかね内科医院)

私が市立室蘭総合病院に勤務して三、四年経った昭和三十
五、六年秋の事だったと思う。

「手が空いたらワシの部屋に来てくれ。」と柘植先生から
病棟の詰所にいた私に呼出しがか、って来た。何かあったの
かなあと思いつながら院長室に赴いた。

「まあ坐ってくれ。」と云いながら院長自らお茶を入れて
差し出された。こういう時は用心しなければならない。難題
を持ち出されるので気を引き締めて院長の言葉を待った。

「君は中澤先生の愛弟子だったなあ。」いよいよあぶない。

「実は加藤教授が来蘭される。君の恩師の先生だ。勿論ワ
シや阿部前院長の恩師でもある。ワシはどの様にして接待し
ようかと思つたが、加藤教授は患者を診るのが一番好きなん
だ。阿部先生とも相談したのだが一人か二人まあ一人でよい
から患者を選定してくれ。勿論君の受持ちから頼むよ。〇号
室の〇〇さんなどい、んじゃないかなあ。」

加藤教授とは、東北大学医学部第二内科初代の教授である。

東大の銀時計拝受者（首席で卒業したものに贈られる）であ
り、二十八才という若さで東北大学教授に赴任された方であ
る。私の在局時代には時々同窓会で拜顔したことはあるが直
接お話ししたことはない。しかし、加藤教授に関する現役時代
の伝説はよく知られていた。一に杉村（第一外科教授）二に
加藤と云われ、嚴格そのものの。俗にいうと一番おつかない先
生の一人と云われていた。

「院長、あの加藤名誉教授が来られて回診されるいので
すか？」と聞き返すと、柘植先生はニヤニヤしながら

「あの加藤先生だ。君の恩師の恩師だから教えてもらうの
も良い経験になるんじゃないかなあ。」

私も考えた。赴任以来何かと院長にたてついて、今でいう
”ツツパッテイタ”ので加藤教授の回診を体験させて、私の
頭を押さえておこうと考えたのかもしれない。しかし、私も
中澤内科の出身であり逃げるわけにもゆかず、「ワカリマシ
タ。」と返事をした。それから何日かして選定した患者の検
査を徹底して行い、病歴についても何回も聞き直し所見もす
べてドイツ語に書き直した。いふなれば、加藤内科ミニ總回
診の再現である。患者さんには、えらい先生が来られて診察
してくれますが緊張しないで、私が診察している時の様にリ
ラックスして下さい。只、時間が少し長くかゝりますが
こういう手順で行いますと、リハーサルも行った。

そして、その日を迎えた。待つことしばし、柘植院長の先
導で加藤教授と阿部前院長が何か話しながら歩いて来られた
「この病室です。」と院長、

病室の入口で待っていた私は深々と一礼して

「今日診察していたゞきます患者の主治医内科の藤兼と申します。よろしくお願い致します。」

以下、加藤教授をK、柘植院長をT、阿部前院長をA、小生をFとして会話を記述する。

K「君は中澤君の門下生かね。」

F「二十七年入局でございます。」

T「では先生お願い致します。F君どうぞ。」

F「わかりました。早速はじめます。」

大学病院總回診の再現であるから手順を省略するわけにはいかない。数日かゝって作り上げたカルテの病歴を、家族歴、既往症、現症、主訴の順に読み上げ、教授の診察と同時に併行して自分で診察した所見を述べた。

顔面から始まって胸部、腹部、知覚、運動、反射等々そして最後に血液、リコール等の検査成績、眼底所見、レントゲン写真等をお見せした。以上の病歴並びに所見により『「一病」』と考え、入院三日目よりこういう薬を用い、現在のところこういう状態です。加藤教授の診察も一應終りとなった心の中でホッとして、これで何処も間違いのないでしょうねと教授の顔をチラッと見た。

そこで事件が起きた。

K「君もう一度腹部の所見を言ってみて見給え。」

そこでもう一度繰り返し読み上げた。そして、

F「以上の様に腹部に関しては特記すべき所見はありませんでした。」

K「レバー、アイン、クエア、フィンガーブライト、フィ

ユルバー。」

一瞬私は戸惑ったが、何回も診て異常は無かったという自信があったので、

F「私にはレバーは触れませんでした。」その時私の肩をチョツとつゝいて、A先生が低い声で「プロフェッサーが触れるというのだから納得し給え。」と云われた。しかし、私は悔しさの方が先にたつたので、もう一度加藤教授に会釈して、

F「私には触れませんでした。」一瞬、病室内に静寂と緊張感が漲った。

K「後でもう一度触診して見給え。その外は一應良いだろう。」

それで終わった。私は諸先生を見送ってからもう一度病室にもどり触診したが、肝臓は触れなかった。当然肝機能検査もしてあったが異常は無かった。

それから二三日経って看護婦詰所で病棟婦長と話をした時、柘植院長が例の回診の翌日朝早く来られて、患者さんの腹部を長い時間かけて触診していたとの事である。そして又数日経った。再び院長室に呼び出しかゝった。院長はおもむろに話し出された。

「あの患者の肝臓の件だが、君はどういう結論に達したかね。」

私は次の様に返事した。

「いずれ院長から聞かれると思いましたが。あの患者さんに対しては、普通この病院では行わない大学病院形式でカルテの記載、現段階で出来るすべての検査を行い、私にとつて全

くミスのない所見を述べたと現在でも思っています。加藤教授が『肝臓一横指触知』と言われた時、『ハイ、サヨードゴザイマスカ。』と言えなかったのです。其の後再診しましたが全く私には触れる事が出来ませんでした。』

柘植院長は、しばらく黙って窓より外を見ていたが再びむき直して次の様に言われた。

「ワシも迷ったよ。次の日もう一度再診してみたがやはり肝臓は触れない。しかし、加藤教授が実際触れられて所見を訂正されたのか、別の意味でワザと、あえて『一横指触知される』と云われたか、ワシにはわからない。しかし、あの回診の後、教授は非常に機嫌が良かった。もしも、教授の性格として、ハッキリ触知しているものを『触知して居りません』と弟子が言ったならば、昔なら烈火の如く怒られてワザワザその弟子の手を持つて触れさせる位の事はしたはずだ。そういう事を合せ考えれば、ネガティブ所見をあえてポジティブではないかと云って君の反應を見たのかもしれない。どちらにしろいろいろ検査は必要だが、内科医の基本は正確な既往症の聞きとりと、視診、打聴診、触診であるという事を君を含めて我々弟子達に教えられたのかもしれない。それがワシの結論だよ。」と、この大先輩は言われた。この言葉は私に且てない感動を覚えさせ、先輩に対して近親感を深めた。その理由は、私が次の様に柘植先生の思考過程を推察したからである。

柘植院長は敬愛する恩師加藤教授も年を召されて（当時七十八才）触診の感が鈍られたのかという悲しい疑念と、柘植先生ご自身が触診に未だ恩師の所見を否定するだけの自信が

もてないという自己反省の間で迷われたのであろう。しかし現実の前にそれらをアウフ、ヘーベン（止揚）して新しい結論に達せられた。それに要した時間がこの数日間であった。そしてその結論は恩師の名誉をいささかも傷つけることなく又、若さ故に妥協をしなかった部下に対する思いやりもこめられていた。

その後も柘植院長と私は、他のいろいろの患者の事で何回も意見の対立があつた。しかし、激しい議論は行われても互いに感情的な反感を持つ事はなかった。同じ内科医としての院長と部下、先輩と後輩との意志の疎通が成立したのである。

あの時の總回診に登場した加藤教授、阿部先生すでに亡く更に今年柘植先生も旅だたれ、あの肝臓事件のやりとりは今懐かしい思い出として心に残る一コマである。

（ちなみにこの患者の病名は、パーキンソン氏病であり、この疾患は中澤先生の『続懷古』に書かれていたが、加藤教授の最も興味をもたれた疾患の一つとの事である。柘植先生はそれを知って居られて、あえて、この疾患を選ばれたと拝察している。）

弔辞は平成六年四月二日柘植先生追悼式に捧げたものである。

弔 辞

柘植先生

最後のお別れの日が参りました。私事になりますが、最初にお目にか、りましたのが昭和三十一年暮れ、東北大学医学部第二内科教室故中澤教授の御紹介をうけた時でした。

爾来今日まで三十八年間にわたり市立室蘭総合病院、又、御退官後開業されてからは、大先輩として、医師としての倫理、患者さんとの接し方などいろいろご指導をうけました。深く感謝致します。

去る二月青森市での本葬に安置されておりました温和な御遺影、本日この追悼式にかかげられております威厳ある御遺影

尊厳と慈悲

医療の世界に鬼手佛心という言葉がありますが、医学に対する厳しさと患者さんに対するやさしさ、この二つを調和させて、病院長として又、開業医として先生は生涯を全うされました。それらが、我々後輩の医師達や看護婦さん、その他医療関係者としては、室蘭市民の方々に敬愛された所以と拜察致します。

先生についての想い出は数知れずありますが、去る昭和五十六年勲三等瑞宝章叙勲の折、祝賀会のオープニングに、エルガーの『威風堂々』を用いさせていただきました。

本日の追悼曲を編集するにあたり、この一ヶ月間、先生の想い出と再びお目にかゝることの出来ない悲嘆を込めて、かずかずの悲しい曲に想いを託しました。

最後に編集し終った時の心境を次の和歌をもつて捧げます。

今はなき師のおもかげを偲びつ、

さ、げる曲に想ひぞたくせむ

柘植先生安らかに眠り下さい。

平成六年四月二日

門下生代表 藤 兼 和 男

こんな情景

加藤 治良

□ 皮スリッパ（旧陸軍の営内靴）の音が廊下を抜けて、診察室まで聞こえて来る。スーッと緊張が走って、看護婦たちはおしゃべりをやめ、私はベシユライバーの席で待機する。：ガーズマスクの声がちよっと聞き取れない。無難・適当に、賦形薬ⅡPSと書いたとたん、「ごまかすな」小さい声だったが、おどろいた。眼光炯々の時代（昭和21年）

□ 玄関の戸障子を開けると、すぐ居間。投げ込みストープの焚き口の前、普段着姿の先生は、デレッキ（火掻き棒）でロストル（火皿）を鳴らしておられた。あぐらの中に坊やがおさまって。「おう、上がれ、上がれ、こんな格好だ。アハハハ」（現文化センター横向いのご自宅）

□ 鶏が丸ごと好い色に焙られて大皿にのっている。奥様が取り分けてくださる。ライスなどが詰めてあつて、「うまい！先生これ、何というんですか」「チンチュームーうまいだろう」と、につこりされた。それ以後の私にチンチュームと先生宅年記パーティとは同義語となった。

□ 父の祝い事のパーティに、無理してお願ひして来て頂いた。「先生、こちら向いてください」ビールのコップを口元に持つていかれるポーズ。目を細められた初老から中老にかけての一枚。よく撮れた。今も、写真帳の一頁で笑って居られる。

□ 珍味ならずとも佳肴を、届けは私自身で、とかたくなに決めて、年末三十日、午後の参上をつづけてきた。

「配達慣れています。雑貨屋の件ですから」「ふム、ふム」破顔から穏笑へとかわって行かれる一年々々であった。

覆面座談会

ふたたび世相を斬る (差別そしてDNA)

飯島三男
大川原修二

山本俊一
西里弘二

編集委員 加藤・澤山・上田・村井
大久保・三村・斎藤
事務局 (高橋・小杉)

平成6年7月28日
於：ビーフハウス志摩



飯島三男



山本俊一



大川原修二



西里弘二

加藤 お晩でございます。たしか第7号でも同じ趣向で「世相をきる」座談会を載せたんですが、大川原・山本・西里の3先生の論客ぶりが印象に残っていた訳です。なお、「波久鳥」生みの親の一人、上田先生に再び編集を手伝って頂くことになりましたのでご参加をお願いしました。今回は覆面座談会なんですが、歯に衣させず語っていただきたい——それと「あ、これはアイツだな」という当てつこの楽しみもあるだろうと考えたわけで、厳かな意味はありません。では先ずのどを湿して頂きましょうか。沢山先生、お願いします……。

さて、あのブラックユーモリスト筒井康隆氏が断筆宣言をしました。いわゆる差別用語の問題なんです。出版社が異常に厳しいんで、彼に限らず「物書き」の人達はそれなりに苦労しているようですが、気の毒だなあ、と思うんです。私達にも専門用語というものがありますが、どうなんですかね。

身近かな所から

A 新しい教科書はよく見ていないけど、

たとえば診断書に書けなくなった用語はありますか？ 白痴・痴愚・痴鈍などは最近変えたと聞いたんだけど——痴鈍がなくなるとかね、新しく出来た？

○ 精薄という言葉が、だいたい——。

A 精神薄弱を使つてはならないとなると、今は何を？

○ 家族にとって使つてはしくない言葉になっていきます。今は精神発達遅滞が使われています。それと心身耗弱は法律上の用語でして——耗弱、喪失もそうなんです。

A マスコミ用語ですね。

B 「知恵遅れ」も今は駄目なんだね。

○ ここ二、三年から身体障害に対する知的障害という使い方です。精神薄弱は本来ドイツ語のシュバツハジンの訳で、精神科の本にも載っていますよ。

○ 外国、毛唐ではどうなの？

B 毛唐なんて言つたら叱られるよ（笑）

A 医学用語の統一委員会ができて目下作業中。もうすぐ出来上がるはずですね。厚生省ではなくて学術会議です。

○ それにしても、今頃何だと思うものに老人性痴呆という言葉がありますよ。ボケと言っていたのに、痴に呆ですよ。

○ 家族や本人が聞きたくない言葉を耳に触れさせないようにする。これは常識的な良識ですよ。しかし学術用語専門用語までイジル必要はないと思う。そのうちガンも駄目になるかな。

A 違う言葉を使えと戻された学術論文はないでしょう。新聞とか出版関係だ。用語集があるんだね。

○ 精神科の病名というのは家族も本人もショックを受けます。精薄とか老人性痴呆にしても僕自身いやなトーンに響く言葉だと思っていますし、相手の方には思いやりのない言葉だと思っています。

B そんなこと言つてたら言い様がなくなってしまう。

○ 物書きさん達への制約も酷だけど、古典落語も落語でなくなるでしょう。

B いまに身体障害も差別用語になる。

○ すぐ抗議・訴訟とくるから出版社も大変だが、作家が一番こたえる。古典の訳文だって差別語に氣を使えば作品としてはそれこそカタワになってしまう。

○ 江戸の戯作なんかは朗読できないね。比喩、からかいに袴を着せたら風俗が死んでしまう。何時頃から差別用語というのがうるさくなったのかな。

A 同和問題で出た非人が始まりらしいけど、「諸君」という雑誌の先々月号に同和の人達を書いていたけれど、やり過ぎの傾向に対する反省から、今はあまり言わないんだとね。結局、同調した他の連中が言い出して、それを厳しくしたのがフェミニストの連中ですよ。

○ テレビ・ラジオで、「只今の番組で不適切な言葉を使用したことを深くお詫びいたします」と言いますね。改めて考えて見ても思ひ出せない。言うやつに言わせるとネ、気がつかない連中に気づかせるために言うんだと。

○ あれはいいんだろうか？ テレビでしょっちゅう出てくるヤル・ヤラセル。あれで公開番組ですからね。

○ 密かにしゃべる言葉だよ。

○ 風俗産業といえど性産業だけのイメージになつてしまった。造語もふくめて言葉の世界ではマスコミの功罪も考えんといかんね。マイクに向かった時の人達が頻発している言葉はね、「そうですね」「と思います」「部分」なんです。「彼のそういったブブンが魅力なの」なんて女の子がいう。次の行動を起こすときに「では——してみようと思います」

って必ずアナウンサーか言いますよ。問
いかけられたら先ず「そうですネ」で受
けるのが一〇〇人中九〇人です。これは
もう会話のリズムでしょうけど、聞いて
いるとアホくさい。

B 先生、それは年齢のせいさ。(笑)

○ 「広く国民の理解を求める」という
題目があるけど、国民全部の納得がなけ
れば駄目なんだ、民主的でないんだ、と
いうニュアンスで書いていますね。脳死
や移植問題のときもそう、今度の北大の
遺伝子操作の報道記事にしてもね。

C それはそれでいいんだけど、民主制
度は多数決。だから国民全ての賛成を得
てからでなければ、という事ではない。
少数意見はある程度切られるわけ。その
辺の曖昧さもおかしいなあ、という感じ
です。

A あの人達を言葉の世界でのプロと思
う人は多いだろうけど俺はプロとは考え
ていない。自分の息子を見ていてもわか
るだろうけど、法学部にしろ、文学部で
も卒業してまあ22歳でしょう。何もわか
っちゃいない。それから五年居たってプ
ロにはなれないんだ。何百人に一人居る
だけです。訓練受けたって質的にはあま

り変わらない。ただし、そういった連中
が主流になる事はないから、長いスパン
で見ればいいんだ。C先生が言った
ように日本は民主主義国ではないんだ。

株式だろうと何だろうと51%で多数意見
を形成するのが民主制。そういう意味で
社会民主主義国家ですよ、日本は。

○ やっぱ、A先生は論客だ。

A 俺はアホみたいな事言うから嫌われ
るんだ。

C ある意味では、言葉がだんだん曖昧
になってきている。全くと全然、これも
肯定と否定どちらにでも使っているし。

D 何々関係というののひと頃流行りま
したね。職業は？ はい会社関係です。

○ 大工関係です、って言うから、大工
さんでいいんですね？ はい、そうです。
生命保険の診査だね。(笑)

○ 営業関係です、公務員関係です――
まだ主婦関係ですは聞いていない。(笑)

文化風俗論

D 差別のことを書くとうすれば当然、
差別言葉ははずしては書けないですね。

B この座談会だって、差別語が飛びか

っているわけでしょ。医師会の本に名前
隠してこんなのが載っていた、誰が許可
した、責任者は誰だ――なんて。

○ 会長、大変だ。(笑)

C 過剰反応は端境期に入っているんで
しょうけど、新聞社でも出版社でも抗議
が来たとき、この事はこうなんだとはつ
きりした姿勢が大切だと思う。申し訳な
いというんなら、初めっから触れなきや
いい。

A マスコミも商売だから、声のかい
人達に旗を振られたら困るよ。多角的に
それをきちんと言えるのは多分医者だと
思うんです。ノーマルな人間とノーマル
でない人間とを差別するような医者は、
医者として使い物にはならない訳だから。
まあ、そうでない医者も結構いるけど。

D 話は少し変わりますけど、数日前の
テレビのニュース番組を見ていたんです。
キューバでエイズ患者を隔離している。
今のキューバは生活も医療もままならん
状態なのに、患者は特別待遇なんです。
いい施設に入って食事から医療までやっ
てくれる。鎖国に近い国だから、外から
来る人間を全部チェックしてエイズ患者
をそういう施設に入れる。収容所ではな

いので、出ても悪いわけじゃない。自分の国や村の訪問も許可され、患者同士の結婚もできるし、私たちは幸せだと答えているんです。

A 伝染病というのは、人類がそれで滅びる事はない。2割が生き残れればいいと言われている。長い間には免疫もできるだろうし、隔離しても昔の梅毒みたいになる者はなるんです。だから、どうするかは国の考えなんです。それに人権とか何とか言う必要はないんです。疫病的に見れば梅毒とエイズはSTDという点で同じでしょう。ただそれを隔離するか、しないかの問題は国でやればいいので、よその国の人間があれこれ言う筋合いのものではない。内政干渉だと思うよ。

○ 中国も言っていたね。天安門のことだったか、あれは私のお国ぶりのことでうちの考え方はこうなんだと。シンガポールなんかは道路に痰を吐いただけでぶちこまれるって。これも清潔な街を造るためなんだから、いやなら来るなという考え方。

A そうなんです。自由・博愛・平等とか人権というのは、偶々フランス革命でできた二百年かそこらしか経っていない

思想なんで、それが絶対のものとは誰も言えない相対的なものです。ソ連の実験で、そのうち自由が駄目になる。博愛でしか生き様がなくなるから人権、人権と大騒ぎしているけど、また元に戻る。五百年、千年で見ればそういう事になるんです。民主主義の発祥国ギリシャには自由・博愛・平等の言葉はない。

D 博愛というのは訳語が間違っているらしくて、言語は知らないけど、むしろフラテという言葉が友愛というらしい。A 友愛というのはお互いに知り合った人間同士の話、それ以外は人間じゃないから関係ない。だから植民地支配がうまく行くんだ。日本人はその点バカだから人間と思う。

D 思っていないかったですよ。だから中国でもやってきたんですよ。無理して思うまいとする時、相手を自分達の仲間でないように命名するんです。満州の例の防疫部隊の話がありますね。人と見なさないでマルタと見なすようにして——そうでなければ、ああいう事は出来なかった。

○ 今、自分用の世界史年表を作っているんだけど、四千年経っても人間すこし

も変わっていない。自分と身内を優先させながら繰り返し繰り返し似たようなエピソードを提供してきているんです。ヒューマニズムといえど博愛的人道主義という訳語を思い浮かべるけど、人間中心主義の方が妥当ですよ。ただ一つ、地球はたしかに狭くなりましたね。異境の地がすぐ近所になってしまったね。これからはどんな風な哲学が生まれてくるのか興味があるんです。でも孫の時代になったら地球という天体がどう変貌しているのかそれが気がかり。

*

○ こくらでちよつと、軽い話でも。先生、近頃腹立つことないですか？

B この頃は円満ですから、何が起ころても腹は立たないな。人間悟りの境地に入ると、こうです。

○ 早く言えば、年取ったということね。B 悟りを開くということは大変な事だ。立たなくなるという事は刺激しても反応しなくなるという話しさ。(笑)

○ タモリのスパーボキヤブラ天国でも、そんな類の話は相当なもんですよ。

A ああいう感覚はよくわかんない。俺は元々四コマ漫画好きでないんだ。物語

性のある劇画と称するやつしか見ない。

B 落語は？

A 落語は聞きますよ、あれは物語性があるから。一コマ漫画や風刺漫画の面白味というのがよくわかんないし、外国の漫画となると全くわからない。

○ A 先生はロマンチストの一タイプ。

B ロマンチスト？ そうではないんじゃない？（笑）

C では、ジョークとか駄目なの？

A スタンドアップという、アメリカのコメディあるでしょう。よく笑っているけど、ああいうの全く面白いと思わない。いわゆるブラックユーモア、イギリス人のね、あれは解るよ。

C 外国のユーモアは背景に出している意味が全然わかんないのがあるから——生煮えで笑ってるしかない。川柳を外人が面白く思わないのと同じかもしれない。

B 知恵が足りないと言われるから、皆が笑うとき笑ってるんだ。（笑）

○ 東京の漫才と関西の漫才と、どっちかというと僕は関西の方が面白くない。悪ふざけに見えて笑えないの。

A 食べ物が違うでしょ。面白い話があるんだ。関西のヤクザが東京の刑務所に

入れられたらね、腐った豆を食わせやがったって文句をつけたんだそう。

B 文化に千年の隔たりがあるんだから違いは仕方ないさ。公卿文化と夷文化の違いが底に流れているもの。

○ アメリカとイギリスのジョークの違いと同じで、受け入れられるかどうかには個性というか、個人差があるし環境だつてあるでしょう。ただ、SKDと宝塚はどっちも好きだから見るけど、面白さが共通していて違和感を感じない。

A あれは、共通語ができてから人工的に作ったもので、昔からの伝統を積み重ねて出来たものではないからね。

D 歌舞伎でも西の世話物はしめっぽく、江戸の好みはバツと見得切つて、ヤンヤと受ける。洒落・小噺でも、お侍さんよ、テメエたちはこの可笑しさ解るめえつて目付きでケラケラ笑ってる。溜飲を下げるってやつ。

C 千年、二千年の歴史だ、伝統だつて言うけど、北海道だつて縄文の中期から石器時代のものが残っている。アメリカ大陸だつてインディアンのはあつたでしょう。

D 都市の文化には法律というものがあ

ります。法律に対して後進国は割と素直だけれども、都市文化の古い国には法律を破るのに強かな人間が多く、中国とかイタリアは直接税はなかなか納めない。だから間接税が中心になっている。

B 百年前まで、江戸幕府が続いていたころ一般の庶民なんて税金という概念はなかった。農民の年貢はあつたけど町民は払っていない。明治になってから戦争が終わるまでの間に日本人の意識はこんなにも変わったのさ。

A 『逆説の日本史』に言わせると日本人が日本人らしくなったのは聖徳太子が作った十七条憲法、その第一条が和を以て尊しとなす。それ以来ずーっと日本人は突出したリーダーを好まない民族だ。だから、皆さん全員が賛成したことなどいってやっちゃいけない。

○ 日本人は宗教心というものを持っていないとよく言われますね。なんでも受け入れる。

中国文化、ヨーロッパ文化、入ったものは何でも。要するに主義主張を持たず、なーなーみたいなもので成り立ってきた。ヨーロッパでは宗教一つをとってみ

でも血みどろの殺し合いをやっていた。

○ それが日本人の知恵じゃないですか？

A 一億の人間がいるのに、アーメンの宣教師が来てから百五十万人以上に増えたことがない。それでバチカンの法王がわざわざ日本みたいな国に来た。そんな国はないんだって。韓国なんか半分以上アーメンでしょ。

B 仕方ないさ。中国の血が流れ、朝鮮の血が流れ、インドネシアからベトナムから全部の血が我々に入っているもの。結局みんなの文化を引き受けなければならなくなるのさ。

○ 最近のお題目の一つが国際化そして国際貢献だけど、日本は昔から国際化しているんだ。

A 何年か前まではアメリカ留学、昔はドイツだった。はるか昔は坊主が中国に行っただ。

○ 今度の政権交代は面白かったな。

A 俺はいつも寝ないでみているよ。

○ 村山さんも、政権取った途端に自衛隊OK・あれもOK。

A そういう意味で日本人は賢い。安保反対の時はそれで食っていた。今ならど

っちに転んでも、誰がやっても変わりは無いということだ。現実感覚がいいと言うべきかもしれない。

○ バランス感覚が非常にいいんだ。

D 主義・信条に関係なく、要するに政治家になりたい人がネ隅々社会党になったり自民党になったりしただけで、選挙する方も、あくどい金を儲けない限りはどっちでも許しているんだと思う。

○ 官僚システムが揺るがないからね、内閣が変わろうが何が変わろうが影響がない。すごい国だよ。

B イタリアだってそうだよ。

○ 仮に今、情勢が緊迫してきて徴兵制が復活した場合、若い人はどういう態度とるだろうか。

A なんとという事なく、くつついて行くんじゃない。歴史は繰り返すでズルズルと。誰が責任負うんだか分からないまま行きますよ。原理原則がないもの。

医療・知恵・進化

○ 老人医療や障害者の医療というのは福祉に入る？ それとも医療に入る？

C 今は医療に入っています。

○ あれを補助しているのは福祉です。手続きとか色んな事は福祉に入っていて重なっているんです。

○ 国民医療費の二十五%は国庫から、残りは保険料。今問題になっているのは福祉がどこに加わるかということ。

B 福祉となったら、本当は国が出さなければならぬ。

C そこを纏めて国が行っているから、一般人は全部国から出でいると考える。それが間違いのもとなんだ。

A 厚生省の役人と話してみると分離は簡単にはできないという事になる。医療費の増加もあって、五十年から百年はネかかるという。

B 今まで全然分離してなかったから、これからやらなくてはいけないんだ。

○ 慣例や既得権を変えるのは日本では不可能に近い。

C 厚生年金も入っているし。

○ 社会保険がどんなに黒でも、組合健保がどんなに金余ってからといっても、片方に回すわけにはいかない。25%相対的に下げなきゃならない。日医などで、医療費はどの位かかるか、現在はこの位残りはいくら必要なのか、計算出しては

しいんだな。

A 医者にまともな計算はできないよ。だいたい日本人はね金のことを言うとき、一ティだと思う。だから取り分のある時期はよかったが、取り分がなくなり、昔のような独立した圧力団体ではなくなった。今はね、まあ業界に対する通産省の感覚に似ているんだ。

○ 医師会というのは年寄りの集まり、片方は東大出の若手が全部の情報をコンピューターに入れて考えているんだ。

C 迫力ある課長クラスもいる。

A 考え方を変えてさ、厚生省は日本医師会を学術団体とみていないんだから、こつちも学術団体と言うのをやめて圧力団体になることだよ。

○ 考えてみれば、お役人はそればかりやっている。一方の医師会の役員は自分の病院を持っている。それを経営しながらだからねえ。諸事ややこしい今の世の中じゃ大変なんだ。勝負にならない。

○ 生活保護をうけているか。(笑)

*

○ テーマを少しアップさせます。人類は進歩していると思いませんか？(笑) 生いかがです？

D していません。

C 科学技術だけは進歩している。

D 安齋先生と汽車の中で話したことあるんだけど、知恵というのは部分集合だから極端に言えば個人的なものが知恵の始まり。だから、おばあさんの知恵とおばあさんだけ知っていて他の人は知らない。皆に広がると知識になるんです。それと、知識をいかに使いこなすかが、知恵で、創造的なものだと思います。

B 悪知恵とはいけど、悪い知恵とは言わないね。

○ 知恵の苦しみという言葉がある。

B ボケ老人は幸福だということだね。

D 幼形成熟という言葉がありますね。

山椒魚で有名なネオテニ。ヒトの場合胎児化説という学説もありますが、猿の子供は直立して後頭腔の位置も人間に近い。大きくなるにつれて四つ足になるんですが、猿の子供時代の形質が消えずに残ったまま進化していったのがヒトではないか、というんです。

○ ダーウィンの進化論とは違う。

D 人間の直立歩行は、猿の胎児の形質がそのまま残ったのではないか、という概念。

B 頭だけが発達したということかな。

それだって、20年前からは何も進化していない。幼年時代からはちょっと進化したけど。(笑)

D 「成人」は社会的に大人として振舞うよう強要されるけれど、何も変わっていない。昔の成人式は今のような晴着を着るのではなく、正に社会の成人として必要なものを兼ね備えた成人――。

A 昔はモラトリアムの期間が短い。でないと皆が食えない。今は三十歳になっても親は食わせてやれる。法的に区切っても精神的な区切りはないんだ。親が亡くなって初めて成人になる。

C 昔は各年代で社会の規範、価値観があったけど今はない。個性時代という事を逆に言えば個性のない、どうでもいい社会になってきているのかも知れない。

A アフリカはモラトリウム期間が圧倒的に短い。保護下にいたらすぐオマンマが食えなくなるから、十歳ぐらいになると離すんだ。

○ 精神科領域で境界型人格障害という言葉があります。精神発達が未熟で現実に対応できない人間がいろんな問題を起こすということです。

D 何を判断材料にして進歩と言うのか
わからないけど、数が増加することと考
えれば適応力になるけど。

○ 増えすぎると鼠の集団自殺。共存の
知恵は進化じゃないかな。

A 適応力の強い生物は他の種を減ぼす
から、共存はできないことになる。

○ ボタンはかけられない、紐は結べな
くなる、私は退化とみるの。ロボットや
マシンを使う事が進化かどうか。

C それ、進化とは言わないでしょ。

○ 頭の悪いやつはDNAの部分入れ替
えをやる、そんな時代になってきてい
るでしょう。ただし科学の進歩イコール
進化とはならない。錯覚ですね。

C 進化が幸せを運ぶとは限らない。

○ DNA操作で二百歳まで可能となっ
たら90%の人が望むだろうか？

B 絶望むよ。

A 俺は、そんなに居ないと思う。

D 二百歳まではとにかく、生殖能力が
無くなった世代が増えたら無駄飯とい
うことになる。(笑)

C でも、人間はその意味でなら無駄な
エネルギーを費してるよ。あのたんびに
子供産んでいたら、すごい人口だ。無駄

も知恵、人間って生物は案外賢いのかも
しれないよ。(笑)

○ そろそろ時間なんで、最後に何か。

○ 医師会の旅行で富良野へ行った時、
百年に一回だけ花を咲かせるという植物
は捜せませんでした。いろんな生き物
がいるこの地球で、人間の王様としての
生き方は誤りなんだ。ヒトもムシもハナ
も幸せに——しみじみ感じました。

○ 以前、三笠宮、あのヒゲの宮さんが、
身障者、健常者というのは結局、どこが
健常でどこが障害なのかというだけの事
なんで、自分はスキーだけは健常だが、
胃を切り食道を切り、そっちの方は障害
者なんだと。また、横断歩道で目の悪い
人を最初から手を引いてあげはしない。
まだ赤ですよ、と教えてあげます。と言
った言葉が印象に残っています。

B 皮を剥す、肉を切る、ほかの人達が
絶対手を出さなかったこと。だから昔は
その人達の生活権をキチッと守ってやつ
ていたとも言えるんだ。

D 特権として認められていた。明治に
なって、そうでないやつらが彼らの特権
を奪い、差別だけを残したんです。

○ 北海道育ちの私にはよく解らないが

穢多というのは明らかに差別だと思いま
す。ただ能力の差だけは仕方がないと思
う。生まれながらに能力差があるならや
はりDNAに組み込まれているのかもしれ
ませんし。

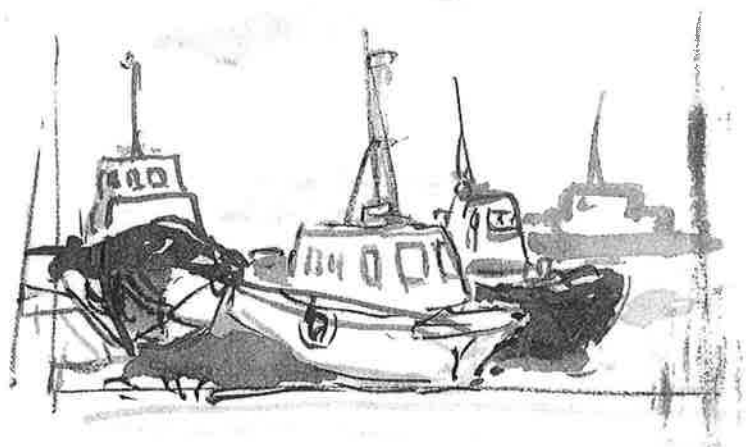
A 俺は、差別と区別と住み分けという
事について考えてみたんだ。自由競争
が決して究極的な良いものとは思えない
からね。

C それはそうだ。差別と区別はきちん
と解っていなきゃね。ひとこと言わせて
もらうなら、「正しい」「正しくない」こ
れが入った言葉は俺、嫌いなんだ。

*

村井 今日はいへん難しい話で、殊に
「差別」という言葉が底流となっていた
ようだけれども、中にはハッと腕組み
をして考えさせられる話もありまして、
私自身、たいへん為になりました。また
最近、親交会や波久鳥の存在可否論を耳
にします。その問題に対するこの座談会
の役割——もあるんじゃないか、と思っ
ております。では、この辺で……。
(拍手)

あんらくいす



柘植先生の思い出

遠藤 孝二郎

(遠藤医院)

我々が敬愛してやまなかつた柘植先生が去る二月二十三日に青森市にて逝去されたと言ふ訃報が入り、私はガツンと頭を殴られた様なショックを受けた。かねて重体であると言ふことは聞いてはいたが、まさかこんなに早く亡くなると言うことは思ってもいなかったので尚更です。

先生についての思い出話となると沢山あつて全部を書くことは出来ないのです。その中の二、三を書いてみようと思います。

先生は昭和十五年に市立室蘭病院の内科医長として赴任されました。当時は戦争の最中であり、室蘭は北方の重工業都市として戦争遂行のために日鉄、日鋼等の各工場はフル操業をしていました。戦争の影響かと思いますが、衛生状態も次第に悪くなり各種の伝染病が次第に蔓延しつゝ、ありました。特に日本が大東亜戦争に突入してからは衛生状態も食糧事情も益々悪くなり各種の法定伝染病が猖獗

を極め、特に発疹チフスの発生はすごいものでした。発疹チフスの死亡率は五十%を越えると云われ、医師の中でも患者から感染し殉職するものも可成りあつた様です。

その様な状況のもとで先生は院長を助けて、率先して伝染病と戦い、その診療に奮闘された訳です。かく云う私も発疹チフスに伝染し隔離病舎に収容されましたが、先生は危険を冒かえりみずに私のために一生懸命、看護や診療をして下さり、私はお陰様にて一命を取り止めることができました。私が今日あるのは先生のお陰と今以て感謝している次第です。

先生の前半生は当地方の伝染病（結核、発疹チフス、その他）との闘いであつたと云つてもよいものと思います。又、先生は昭和十九年暮召集されて、新潟県の新発田陸軍病院に転出されましたが、そこでも発疹チフス等の恐ろしい伝染病の治療に腕をふるわれ、皆から感謝されたと聞いて居ります。

戦後復員されて、又、市立病院に勤務されましたが、間もなく辞めて現在地に開業致しました。戦後の何もない時代の開業で大分苦労されたと聞いて居ります。

仕事も軌道にのり、さあこれからと云う時に先生の出番が廻って来ました。即ち昭和二十六年の市立病院の焼失後に請われて院長になり、約二十年間市立病院の再建に大いに活躍されたことは皆様御承知の通りです。

先生は学問には非常に厳しい方でございました。いい加減なことをすると許して貰えませんでした。しかし、非常に包容力があり、人情味がある方であり、先生と一緒に居ると父親と居る様な気分になり、心が休まったことも事実です。

先生はまさに将の将たる器の方であつたと思つて居ります。個人的な交際になりますが、先生とは三回程、国内旅行（家族共々）をして居りますし、又ゴルフでも時々顔を合わせて居りますが、あの時の先生の嬉しそうな顔は今でも忘れることが出来ません。今の私の心境は「あ、巨星墜つ」と云う言葉に盡きます。先生どうか安らかに眠り下さい。思うことの万分の一も書けませんが先生の御冥福を祈つて擲筆する次第です。

柘植重夫先生の追憶

鴨井清一

（鴨井病院）

半世紀の昔を追憶するに、昭和十七、十八年頃、私の医学生時代市立室蘭病院内科に於て、医長の柘植重夫先生に初めて指導を受け、豪放にして誠実の感を深め、当時河島文夫先生も見えられた。其の後敗戦の昭和二十年八月より昭和二十四年十一月まで、本院外科と輪西分院外科に勤務し、その間副院長であつた柘植先生より、医局研究発表会にと云われ、各科持ち寄りにて症例知見を述べた事もありました。又、先生はスポーツマンで病院野球のリーダーとして、投手をやられ、大変活発であり、そして対日鉄病院戦に私も参加し、日鉄病院長投手から二塁打を飛ばした事が未だに忘れられません。又、先生は時々の病院運動会にも中心的役割をされ、院内の意気を鼓舞された。或時カルルス温泉一泊オロフレ登山に誘われ、温泉泊まり翌朝早く出発する

も、四十五年前戦後の事で荒れ果てて登山道充分でなく獣道の笹藪を分けて進み、案内人なしでは無理と判断して中止となり一同帰蘭した事もあつた。そして昭和二十三年頃、一時退職された先生は、当時常盤町で開業され、其頃自動車に非常に少なく、毎日の様に自動車にて往診し多忙な月日を送られて、数年後には現在地幸町に立派な医院を新築して、患者で溢れていた様子でした。所が、昭和二十六年二月突然市立病院が大火炎上焼失し、次いで、当院長辞任となり、続いて、市長、其の他関係者の三顧の礼による院長就任の懇請を黙し難く、先生は昭和二十七年、宅地百七十坪に建つ新築医院を暫時利用後閉鎖し、本院復興の為院長を受諾し敢然と立ち上り全力を傾けたのであります。此は凡人の出来る事ではなく先生の市民愛、病院愛の致す処で其の度量の大きさに敬服する次第であります。そして、当時東北大学第二外科医局にて研究中の私は、論文終了したばかりの時、院長から帰蘭し本院勤務の話もありましたが、医局の方針に従い、宮城県町立病院副院長に就任する事に成りました。

又先生は、室蘭市医師会副会長として、永年活躍し、当時斉藤義太郎会長、柘植重夫、松岡幸七両副会長コンビは、何事にも有名で、毎年料亭常盤で行われる新年宴会での三人一緒のソーラン節踊りは、面白く、素晴らしかったと記憶しています。

次に昭和三十一年秋、市立病院内科勤務中の弟鴨井清成の婚礼に際し、媒酌人を快く引き受けて頂き大変御世話に成り、其翌年亡母の病の事もあり、私は現地に外科医院を新築開業した次第です。其後先生は、長期に渡り鋭意努力され本院新築と立派な精神科分院新設等の大業を成し遂げられ、且つ脳外科新設をも準備し、満二十年の職責を閲したるを以て、後進に路を譲らんとし昭和四十七年七月勇退されたのであります。

しこうして、今後三年後山手町に道南最新の自治体立基幹病院を新築予定の事で、多数市民の期待する処であります。

退職後の先生は、元の医院に悠々自適の診療をされ、運動としてゴルフを始められた様で、竹内隆一兄、鴨井清成弟、私と4人コンビで月何回か先生を誘って、白鳥コースに出掛け、自宅からは何時も

鴨井内科の自家用車で一緒し、門前では常に奥さんが礼儀正しく見送って居られました。そしてロータリーゴルフには常に参加し、アプローチ、パットが得意で、スコアを上手に纏めて楽しんでおられた。

次に、国際ロータリーに関しては、昭和二十七年以来の会員歴で、其間熱心な会長、委員長として奉仕活動に努め、最長老と敬愛され、会合挨拶の際ユーモアを交えて皆を笑わせる事が上手でありました。又道知事選の際室蘭地区後援会長に祭り上げられた時、私は事務所に案内され挨拶した事もありました。

又先生には、東北大医室蘭同窓会の会長並びに幹事を四十年余りに渡り務められ、且つ東北大室蘭同窓会会長をも昭和四十六年より兼任され、会員を上手に纏め、今日に続き懇親の実を掲げられた手腕に敬服する所であります。そして、昭和五十一年私事でありますが、長女の結婚の際、立祝の媒酌人をお願い申し上げ格別の厚慮を頂いた者です。

所で先生は、自治体病院長として名を遂げられ、永年の功により位階勲等を授けられ、常盤会を中心に祝賀会が行われた際の其の晴れやかな姿はひとしおであ

り、私も数十年振で昔の看護婦諸嬢に会い、感慨無量の感を深くしました。

以上、過去半世紀に渡り、御交誼、厚情を賜り、走馬燈の廻る如く盡きる事なく、想い出が続いて居りますが、此にて筆を擱きたいと思ひます。

柘植重夫先生を偲ぶ

大 辻 祐太郎
(大辻内科医院)

昭和二十七年暮、東北大学抗酸菌病研究所(抗菌)に在職中、市立室蘭病院に赴任しないかと同級生の加藤内科助教授の板原君から話があり、早速私の師である外科部門の鈴木干賀志教授に御相談したところ「病院長の柘植先生は加藤内科出身の方には珍しい非常に気さくな話の解る先生だから安心して赴任したら宜いだらう」と室蘭行きを勧めて下され私もその気になった。柘植先生は鈴木教授とは共に仙台第一中学校、二高、東北大学医学部と一貫して先輩であり、且胸成術を行う為二・三度室蘭に来院されたことがあった。

翌二十八年三月二十六日朝早く室蘭駅に到着した処、駅には柘植先生御夫妻、洪田外科部長先生、塩沢内科部長先生の御出迎えを受け御丁寧な御厚志に驚き且感激した。家が無くて間借りしたのが、当時の北洋塩業会社室蘭支店長林様の御宅であった。当時は、非常な住宅難であったので住宅探しに困却した柘植先生と私の函館中学校及び大学の先輩である洪田先生と御相談の上、豫め昵懇であった林様を一杯飲ませサントリー一本で私の間借りを承諾させたと云うことであった。尚両家族数を減らしてまとまる様に細工して報告なされていたことも知って私共も林様も大笑いをした。林様宅には約二ヶ月間御世話になったが林様の御一家より甚だ御親切に御世話して頂き、御蔭で現在も親戚以上の御交際を得ている。三月二十二日仙台を出発し室蘭には確か二十六日に赴任したにも拘らず三月末に頂いた俸給は仙台を出発した日より月末迄の日数を計算され一万三千四百円程頂戴した。それを手にした家内は「貴方、月給はこんなに多く頂くんですか」と目を丸くして驚いた。一ヶ月の月給一万二千円、各日曜日に私がアルバイトに出かけ

て貰った一万円で暮らしていた家内にとって恰も夢でも見ている様な金額であった。以上の様な御配慮して下さいさった柘植先生の御高配に心から感謝し感激した。結核病棟に勤務中週二回宛胸成術やその他の手術をやっていた。当時は最早胸成術に代って肺切除術が全盛を極めていた為、私も肺切除術をやりたくて仕方が無かったが手術室にも馴れ器具も揃ったので翌二十九年五月柘植先生に御願ひし私一人では自信が無かったものだから仙台の抗研外科より熊谷直助教授に御来蘭を御願ひし症例も七々八名選んで張り切って手術を始めた。第一例は右上葉の切除術であったが手術も経過も非常に順調に行った。第二例も同様右上葉切除術であったが、手術は順調に済んだが夜半突然症状が悪化し徹夜で付添っていた熊谷先生と私は夢中になって一生懸命救命処置を行ったが効なく死亡した。第三例、第四例は肺切除術は順調に行われ経過も良好であった。第五例は左肺全体の気管支拡張症の為左肺全剝手術を行ったが、手術の途中より出血が止まらなくなり輸血に次ぐ輸血と救命に努力したが症状は悪化の一途を辿り死亡した。私は全く奈

落の底に落ちた様な気持ちになり室蘭市から夜逃げせねばならぬのではないかと思った。

手術の結果を柘植先生に御報告申し上げた処先生は「肺結核患者の病気が悪化して死亡するのは致し方ないが人為的に死亡させることは好ましくないな」と申され私は胸を錐で刺された様な気がした。その後肺切除術を中止したが同年九月一人の患者さんが「是非私に肺切除術をして下さい」と希望され私も「私に手術をさせてくれるか」と感激して手術を行ったがその後は略順調に経緯し三年間の市立室蘭病院勤務を退職し三十一年三月に開業した。

その後柘植先生に公私に亘って種々と御世話様になり御厚情に感謝し過ごして今日に至っておりますが、先生に「人為的に患者さんを殺すな」と云われたことが今尚胸に刺さっております生涯忘れ得ない思い出になると思います。

佐藤善弘先生を偲ぶ

大辻 祐太郎

(大辻内科医院)

東北大学の先輩である佐藤先生は私より一年前に故郷室蘭市に御帰りになり、御母上の待つておられた幸町に開業された。一年後室蘭市に赴任した私は先生には言葉に云い盡せない程御世話になりました。その詳細に就いては先生の御葬式の際に弔辞を読ませて頂きまして些細な御礼と致しました。弔辞の全文が室医会報の第二八四号(平成四年十二月号)に載っております。

故佐藤医師会長を

偲んで

高橋 昭 三

(愛育小児科医院)

古き良き時代の医師会から、近代的な医師会に移り変ろうとしていた激動の時代に佐藤先生は、室蘭市医師会長に中島医師会長の急逝により急遽副会長より就

任されました。

彼の業績を数え上げれば、きりがありませんが、井勘定だった当時の会計を近代的な会計にした彼の業績を知る人は余り居ないのではないでしょうか。

勿論、会計も居たし、監査役も居りましたが、まったくその機能は有つて無きがごとしで、阿吽の呼吸で万事進行して居りました。

例えば、こんな事も有りました。私事で恐れ入りますが、新年会の折り新参者の私は末席で小さくなって酒を飲んで居た宴の終わり頃、大先輩が私の所にやって来て、昨年医師会に入会した高橋君とは君かね?はいと答えたところ、所で君は財布に幾らあるかね?内心ビックリしたが、初めての医師会であるし恥をかかぬようあるだけの現金を持つてきて居たので、はいウン万円有りますと答えた所、よろしい、会長が君を二次会に招待するそうだから、この会が終わったら別室に来るようにと云われた。

私のような新参者にまで会長が氣を使つて二次会に招待して呉れるなんて、なんと素晴らしい所だろう、こんな立派な医師会に入会出来て私はなんと幸せ者だ

ろう!!と感激しつつ二次会場に向かった。

会場に入る早々会計殿が私の傍に来て二次会費として金壱万円徴収する。

私はその頃の看護婦の給料が四千円から六千円、私のような大酒飲みでもキャバレー、キムラ、ブラザーでも千円有れば十分ヨッパラウ事が出来た時代の壱万円である。

流石開業医の先輩達は違うな等と驚いたり変な所で尊敬もした。

会長から高橋君此処に來たまえ、一献差し上げよう。恐る恐る会長の前に参上し杯を頂く、末席に戻った途端、先の先輩がまたやって来て、君は若く忙しいだろうから、これで帰つてよろしい。

驚いたり、呆れたり、兎に角帰る事とし廊下に出た途端襖越しに、今日の会費が出来たな!と誰とはなしの呟きが聞こえた。

私がこの事を佐藤会長に愚痴つたからでも無いが、会計の井勘定は全く無くなつた。

その他会員の皆さんご承知のように予防接種のトラブル問題が新聞、テレビで大きく騒がれた時の対応にしても、救急

患者のタライマワシに端を発した夜間医療問題にしても、医師会館設立に関しても、我々理事の能力が十分發揮できるような場を作り裏方に徹し尻拭いを一生懸命して呉れたからこそ、あのような立派な業績を残せたのであり、室蘭市医師会史に残る名医師会長の一人であると私は思います。

最後に佐藤会長のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

ゼンコー先生と

大久保 洋 平

(大久保医院)

第一印象

前年の暮にふるさと室蘭に戻った私は翌昭和四十年早々に室蘭市医師会に入会した。

当時、総会は安田銀行（富士銀行）の階上で行われていた。

医師会の幹部として（理事だったか副会長だったろうか）壇上に立たれ何やら説明されていた色白で細縁の眼鏡をかけいつも濃紺のスーツで決まっていたダンデ

イな中年医師が佐藤善弘先生であった。年輩の方々はみな「ゼンコさん」と親しみを込めて呼んでいた。

ゴルフ

医師会には色々な同好会があつて私も野球をしたくて間もなく親交会にも入会した。二・三年の間は色々な相手チームと対戦してかなり好成績をあげていたが次第に野球は下火になり、その頃ブームとなつていたボーリングに夢中であつた。これも数年で全国的に落ち目になつてしまつて、しばらく魚釣りなど手を出してみたりしていたが、そのうち誘われるままに紳士のスポーツ、ゴルフを始めることになる。

ゼンコー先生は既にかんりのゴルフキヤリアを持つて居られたが、私もゴルフを始めたとなると、どちらからともなく急に接近する機会が多くなつた。一番の理由はゼンコー先生の所と私の住いが極く近いこと、私は車を運転するが先生には車もなく運転もできないからである。医師会のコンペのスタート表が配られると直後に「佐藤ですが」と電話が来る。私が載っていないときにも「今度どうして出ないんだ」とまた電話が来る。

二人共、早朝のゴルフではハウスに到着すると必ず改めてトイレに入る癖があつたので、六時には我が家を出発した。

ゼンコー先生は大抵、玄関先で奥様と並んで待つておられるのだが、たつた一度だけ玄関のチャイムを押しても出て来ない。二度、三度と繰返し押していたら二階の窓から寝呆けた先生が顔を出して

「あれ、コンペは明日でなかったっけ？」と言つて慌てて飛び出して来た。この日は祝日、明日が日曜という時だった。

車では必ず助手席に坐る。時々、ご一緒した柘植先生は一人だけの時でも、決まつて後座席に坐られた。

或る夏の朝、いつものように雑談し乍ら室蘭新道を走つていたら御崎トンネルを出た途端、私の車を追越したばかりの乗用車が急ブレーキをかけて直前で斜めになつて急停車した。もう二・三メートルで私が追突するところであつた。やつと止つて状況を見ると逆行して来たガラクタを沢山積んだ小型トラックが先方に止つている。新日鉄前の入口を間違えて侵入して来たらしく、私を追い抜いた車が正面衝突をするところであつた訳である。先生と顔を見合せてホツとした瞬間

間であつた。

私が腰痛を起してゴルフから遠ざかるまでの十年間で最もゴルフを一緒させていただいた一人がゼンコー先生である。ゼンコー先生は何年やっけていても心底下手クソであつた。ゴルフの技術に関しては全く学ぶものとはなかつた。ラウンド中は互いに口数も多く手数も多いのでスコアの計算には電卓が欲しい位であつた。私がゴルフを始めたのが丁度四十才の時。始めた年齢の半分になるのが一般的なハンディキャップなのだそうである。私が十年経つても27にしかなれなかつたのはゼンコー先生にあまりにも付き合ひ過ぎたからではないかと思つてゐる。プレー中は誠に楽しんでおられたし、お目当のブービー賞を取つた日などは、歸りの車中は凄いはしゃぎ様であつた。

陸前高田の柿

ゴルフで一緒にするようになった年の十一月、奥様が袋一杯の柿を届けて下さつた。東北・陸前高田から送つて貰つた柿と言う。平たい大きな柿である。大きな柿は庄内か福島あたりが北限と思つていたので聞き馴れない産地の柿を有難く賞味させていただいた。その後も毎年同

じ頃に柿をいただいたが、一貫目以上もある重い袋を下げてわざわざ拙宅を訪れて下さる奥様の歩行が年毎に大変つらうなのになにに氣付き、お訊ねしたところ数年前から膝が不自由とのこと。申し訳なく思い「どうぞ、これ以上、氣を遣つていただかなくて結構です」と申し上げたのに、その後もしばらく、この柿を届けて下さつた。

ゼンコー先生もやがて病に犯され、好きなゴルフも出来なくなり、浜町でお目に掛かることもなくなつて平成四年十一月三十日に遂に遠い所へ去つて行かれて了つた。

そして翌年、ゼンコー先生の後を追うかのように、あの奥様も他界されて了つた。

秋になつて熟れた柿を見ると、あの陸前高田の柿の味をそおつと思ひ出す。

何かとご厚誼をいただいたお二人のご冥福を心からお祈り申し上げる。

故長田廣先生と私

大 岩 昌 生

(大岩医院)

長田先生の悲報が伝わつたのは今年9月のことです。先生が千葉県に移住されてから久しくお目に掛かる事ありませんでしたので、晩年の様子は判りませんが、先生らしく蟄居して孤高な生活を送つておられたものと思ひます。

此の度、波久鳥編集者より先生の思い出についての原稿依頼がありましたので、少し述べて見たいと思ひます。

其の一 医師親交会の事

私が親交会に入会したのは昭和三十年頃で、長田先生は副会長をして居られました。親交会は親睦会でありますと同時に積立金による会員相互扶助と当時保険医總辞退問題がありまして運動資金として運用されておりました。斎藤義太郎会長と共に手腕を発揮されておりました。昭和五十四年頃、産婦人科の開業をやめられまして千葉県の方に移られる事になり、医師会で送別の宴を開いたのですが、其の時私が先生に呼びつけられました。

小咄医者

加藤 治良

(加藤内科医院)

小咄とは、笑わせることを目的としたちよつとした短い話。短い落語。または落語のまくらに用いる江戸趣味の笑話。一口ばなし、とある。

当節のブラウン管は、芸能タレントに占領されて、古典落語など週間番組の片隅でなんとか命脈を保っている程度。最近目立って、ストリートなY、H談のやりとりが増えたようで、楽しげに笑い合っている彼らの目つきや表情は何ともうすぎたない。軽口、地口のたぐいまでが教養・古典のジャンルに格上げされそうな気配濃厚なのだ。

フランスのそれにせよ、江戸の小咄にせよ、そうとう生臭いものはある。それを救っているのは選ばれた言葉と語り口のとぼけた生真面目さ——いかなれば突き放しのリズムだと思う。

フランスの小咄は森繁でもいい。だが、小林桂樹に語らせてみたい。モリエールではなく、トルストイが呟くのなら聴いてみたい。江戸小咄にはそう思わせる

所、それは逆児である電話で方法を指示するから直ぐ手を洗うように命じられました。産道に手を入れ腹の方からと両手で胎児をひっくり返すのだと言うのです。長い時間かかってようやく分娩成功、やれやれ、今思うと冷や汗ものです。其の後、優生法による中絶も何度も依頼しましたが心良く引き受けて下さいまして感謝して居ります。

先生のご冥福をお祈り申し上げます。以上

記

元会員長田廣先生が平成六年九月十二日、ご逝去しました(享年九十才)。

先生は親交会設立に尽力されたお一人で、また本誌「波久鳥」の名付け親であります。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

「長年考えて居た事があるのだが実現せず離断するのは残念である。」と言うのは会が盛大になったのに機関紙が無いのは淋しい、大岩君に後事は託すから是非成し遂げて欲しいとの事でした。突然であつたし私には其の才能が全くないので努力して見ましようと返事して別れました。其の後、役員の先生方に其の話をいたしました所やりましたという事になり、私も責任委員の一人になりました。一九八〇年創刊号発刊の運びになったのです。現在まで途切れる事なく年刊発行している訳ですが次々と優秀な編集者が現れ益々内容の濃いものになっているのは嬉しく思います。これも長田先生の炯眼によるものと思つて居ります。送別会の席で先生が歌われた見事な「さんさ時雨」は今でも忘れません。

其の二

私が現在地の鷺別で開業しましたのは、昭和二十四年です。私は内科医ですが、地元には産婦人科が無く、産婆が持て余した出産には何度も立ち会いました。或る時難産があり、当時は急な移送の方法も無く長田先生に電話で窮状を述べた

編集室

ものがある。

さて、川柳、小咄の舞台に欠かせないのが、女房、息子、女郎、浪人、盗人、それと、われわれ医者である。皮肉られひやかされる藪医者、ずっけ医者だが長屋哲学、路地裏文化の価値ある担い手として、江戸市井の肌の匂いを充分に持ち合わせた愛すべき町医者たちののだ。

以下、いくつかを選んでみたが、原文で相当難解な語彙を使用しているものは読みやすいよう適当に改めてある。

◇ ◇

一 殊のほか、閑なる医者あり。女房「なぜ御前様の療治はき、ませぬ。世上では下手医者とううしましょう」といえば医者殿「いやいや、おれは名人上手なれど、病人がみな下手じゃ。それゆえ療治がきかぬ」お内儀「それはどうして」「されば、おれは書物にある通り古法を用うけれど、病人がみな、古法の通り患わぬゆえじゃ」

二 いそがしまぎれに、二階から落ちて目をまわす。女房三、四軒隣の下手村毒庵殿へかけて行き、「お内ならば一寸お出でなされてご覧じて下さりませ」「只

今参ろう」女房かけ戻り、灸などすえる。医者「どれどれ見てやりましょう、ハア脈が上がりました。これはもう能くならぬ病氣じゃ。さてさて残念な。見せようが一日遅い」

三 急病とて急がわしく出てゆく拍子に、隣の子供を蹴飛ばす。隣のか、飛んで出「この医者殿は、いかに急な病用じゃとて、人の子を蹴飛ばすという事があるものか」大いごごの中へ、大家殿あいだに入り、「一つ長屋の事なれば、まあまあ——高が足でけられたばかり、この人の手にかかって活（いき）た者は一人もない」

四 下手な医者殿、病家から帰ると、さじを拝む。女房ふしぎに思い「何ゆえに拝み給う」という。「はて、馬鹿な事をいわつしゃる。これがなければ、とうに解死人（下手人）になります」

五 子供、糠漬庵様の内へ行き「お前の内の竹の子をチットおくれなされませ」「ナニ、やぶもなく、竹の子があるものか」「イヤそれでも、お前を人が、藪

いしゃと申します」

六 えんま様、大病にて、地獄の医者いろいろ心くだけでも、はかばかしからず「娑婆の名医をつれて参れ」と青鬼へ仰せつけられれば「畏まりましたが娑婆へ参りまして、どれが名医か知れませぬ。どういたして見分けましょう」という。「それはなんでも、門口に幽霊のいぬ医者が名医じゃ」といつけられ早速娑婆へ出、医者 of 門口を見るに、皆ことごとく、盛り殺されし恨みの幽霊、すさまじくつめかけている。「これではならぬ」と新道のほうへ回りければ、小さな家に新しき格子と新しい宿札をかけた医者、幽霊は一人もなし。「これこそ」と、ずつと入ってみれば、昨日からなつた医者。

（中国笑話の翻訳）

七 藪医者、療治の帰り途、暑さに困り、陰に涼み居たりしを、うわばみ来て何の苦もなく呑みにけり。医者、腹の中にて工夫し、巴豆大黄（はづだいおう）をまき散らしければ、腹中大いに鳴り渡り、医者を立ちくだしにくだしけり。医者大いに喜び、帰らんとせしが、薬箱をうわ

ばみが腹中に忘れたり。「これはしたり」と、うわばみの前にかしこまり「やい、うわばみ、今一度、おれを吞んでくれい」といえば「エ、医者を見るも胸が悪い」

八 湯くみ奉公している所へ、在所の医者尋ね来て、ゆるゆると話最中、切抜き穴をのぞけば、美しい女の大勢丸裸にてざわざわするを見て、気の毒顔にて「アノ裸は毎日毎日の事でござるかえ」「アイサ、朝の五ツから夜の五ツまで、あきはてるほど拝みます」「ホホウ」別れて帰り、間もなく国より医者一袋をくれる。久しいもの、と開けてみれば、地黄丸の粉。

九 手代、医者の方へ行きて、「手前娘御もお陰を以て段々全快致しますが、このところ、いろいろと食好みを致されます。鱈(きす)、長芋の類は食べてもようござりますか」「なるほど、もうようござる」「松だけのような物はナ」「いやいやそれは大禁物でござる。なりませぬなりませぬ」「イヤサ、松だけの事でござりまする」「ム、松茸ならばようござるが、松だけの様なものはなりませぬ

ぞ」

一〇 北越ノ医、元庵、声価益々高シ。一女子山中ヨリ来リ治ヲ乞ウ。言語多ク解シ難シ。看脈ノ時、誤ッテ一屁ヲヒル。恥ジルコト甚シク顔ヲ挙ゲズ。元庵シラヌフリシテ言ウ「吾レ聲ヲ患ウ。汝高声ニテ我ニ語ルベシ。近頃月ノ事如何ン」女子解セズ。元庵曰ク「経水如何ン」女子以テ毛ノ数ヲ問ウトナシ、顔面火赤ニ益々低声ニ応ジテ曰ク「十六歳ヨリ漸ク生ズレドモ、未ダソノ数ヲ点検セズ」

一一 昔、辺土に粗忽なる医者あり。隣郷に年二十ばかりの鉄漿(かね)つきたる男患い、鉢巻して打臥し、かの医者に始めて会い、脈をとらせけるに、医者肘をいかつにして脈をうかゞい済みて、病人にいうようは「このほど、月の障りあるか、とゞこおるか」病人これを聞き「それがしは男なり。男に月のさわりは珍しい」といふ。医者、南無三宝と思ひ「その方はお齒黒つけていらる、ほどに女子かと思つた。男ならば男と、初めから名のりたいたものではないか」というて暇乞いなしに逃げた。

一二 ある人、さんざんに患い、医者を呼び、脈をとらせければ「これは大事の御わづらいにて候。一儀を御ひかえなくば御薬は進ずる事で申さず」と申されければ「その段は、はや二、三年も御座ない」「それは奇特の御事じゃ。さらば薬を参らせましよう」といふ。その男、「御ついでに、女共の脈をも」とて呼び出す。医者「この脈は懷妊の心もちお座ある。亭主のその気色にて、あのようなれば、なかなか療治がなるまい」と申さる。亭主、迷惑して「それは我らが子にては御座あるまい」

一三 近年医者衆閑にて、よい医者殿もさびしく、いわんや藪医は尾羽打からし甚だ困窮、去年の大晦日苦しみ忘れず、春を春とも思わぬ折節に、はやり風。サアしてやつたり。「借錢の輪抜けするはこの時」といさみ立っている居る所へ、同気相求めるとて、同じ藪医者二、三人入来たり、陽気にひとつと居並ぶとき、はるかに聞こゆる鉦太鼓。何事なるぞと驚くを側に居合わす客人「あれは風の神を送るのでござる」といえば、「ハテ、いらざる殺生を」

一四 はやり風にて医者衆も払底にて、下手村どの、仕合せ。そこへもここへもと呼ばわり引つづる。「このように流行るからは、駕籠にのらずばなるまいが、かごかきの看板は何にしような」といえば、心やすい人「とんび風を付け給え」「フウ、その思い付きの心は」「ハテ、風がやむと、おりねばならぬ」

一五 大家三、四人、自身番所に詰めている中に、一人の近付きの医者通りか、り「御番ご苦労。いつもよく、おつとめなされますナ」「かたじけないご挨拶、私の番は丁度貴方のお薬と同じ事でござります」「とはなぜな」「ハテよく廻ります」「これはこれは」と別れ行く。そばなる家主、これを聞き、なんでもおれもと言いたいものと、かねて近付きの医者を通れかしと心がけしが、ある時、近付きの医者、忙しそうに通る。「もしちよつとお目にかかりましょう」「只今は急病で参ります」「いやいや、お手間はとらせませぬ」「さようならば早く仰せ聞かさりませ」「いや、外の儀でもござりませぬ。私が番はお前のお薬と

同じ事」「それがどう致しました」「ハテよく当たります」

一六 急病家へ行くとして、脇差と申うてすりこ木をさして行く。病用相すみて、家人すりこ木を見て笑う。「憎き女房め、かような事を氣を付けべき事なるに、立帰り叱らん」と暇乞いもそこそこ真一文字にはせ帰り、わが内を取違え、隣の内へ入り、内儀の縫物している所を

「おのれ憎い奴、脇差を取違いさしたるを、知らぬ顔に見なし、万座の中にて恥を与え、言語道断、不届きものめ」と叱れば、「これはしたり、隣安さま、何をおつしやります」というを見れば、

隣の内儀。「これはそそう」とわが家へとんで帰り、女房が前に手をつき「只今の不調法、御免下さりませ」

一七 さる流行医者の所へ夜更けてから病用をいうてくる。「おつつけこれからと使を返し「今夜は雨が降る、冷ゆるわ、おれは不快じゃ」というて、「こなた、名代にいつてくりやれ」と内弟子を駕籠にのせてやる。眠けれど師匠の言付け故是非もなく、駕籠にのりてふらふら眠り

ながら行く。病家の門口に駕籠をおろして、かごかきが「頼みましよう頼みましよう」といえばかの弟子ふつと目を覚まし、かごの中から「ドウレ」

◇ ◇

きわどいものに、思わず小膝を打ってしまふ傑作もあるが、文字ではまずい。場所柄も考慮せずばなるまい。蛇足だが⑮の“当たる”は「中毒る」である。

おしまいに、医者に化け禁断の遊所通いをする坊主の咄。坊主頭の医者も結構いたらしい。

○ 医者坊主、しげしげ通いしに、女郎、寝坊にて一朝も送つて出ぬゆえ、業腹がり、どうしてくりようと思ひ、ある時行き、やはりたわいなく寝入りしゆえ、女郎を坊主にしてはやばやと帰りければ、女郎やがて目をさまし、頭をなでて、「ばからしい。ぬしゝまだ居なんすか」

おわり

美はしき エスパニョーラ

上田 智夫

(上田医院)

旅は道連れ

寅の旅は映画もどきの一人旅が多いので与太話を書き散らしても、「講師師、見て来た様な嘘をつき」てな事ですんだが、今回は御同業のK先生御夫妻と同行、嘘八百とはいかないなあ。二人の女房殿からは是非エジプトにとの御要望であったが、折柄カイロでは観光客を目標にしたイスラム原理主義者のテロが頻発、且那は二人共拒絶反応でスペイン旅行となった。

千歳空港で、「寅さんではありませんか」ほら十年前スペイン、フランスを御一緒したTですよ、お元氣でお変わりないですなあ」と声をかけられ、そう言えば思い出した。あの時も色々あったなあ、パリではショーを見ていて午前二時に帰ったら四時過ぎにモーニングコール、顔を洗わずに荷物を作ったつけ、武勇伝は内緒だよ。

ロシア航空事情

成田、ロンドン間は英国航空。空席の関係でビジネスクラスに乘せられて大満足。ところが出発が遅れ「管制塔からの連絡によると、モスクワ上空通過が渋滞しており現在四・五時間待ちなので、本機は進路を変更カナダ上空からロンドンに入ります」との事。帰国後テレビを見ていると、ロシア国内の航空路のコントロールは三十年前のまゝで（国営アエロフロートは、民営の群小会社に分割）危険が一杯との事。そう言えばロシア国内の事故多発は目を見張るばかり、操縦席で自分の息子に操縦を数えていたと言っていたのは、自動車教習所と間違えるなつてんだ。

昔なつかしいアラスカのマッキンレー山上空を飛んでロンドンへ。海賊空港ヒースローも大きくなりすぎ、サテライト間を廻ってやっと「ビター、ビール」にありつく。

ブラド美術館

マドリッドは型どおりレティイロ公園からプラドへ。初めてではないが何時も感動する。現地の日本人ガイドが美術に精しくて、ベラスケスの「マルガリータ王



ブラド美術館

女」、グレコの聖画、ゴヤの二つの「マハ」など、新しく背景を教えられる。ゴヤ晩年の黒の絵のシリーズ（ドウエンテII人間の心の内に巣くう化物）では、人間の暗さ、恐ろしさをのぞき込む気がする。スペイン内戦以来数奇な運命をたどり、北欧、イギリス、ニューヨーク近代美術館、ブラド、そして今はソフィア王妃美術館にあるピカソの「ゲルニカ」とは、同館の休館で面会出来ず。

ブラド横の土産物店「ティミール」は、

日本人経営で衣類は日本人サイズ、消費税の戻し税手続きもして貰え便利ではある。

最大の繁華街グラン・ビアを通過してスペイン広場、ラ・マンチャの人ドンキホーテの銅像前で記念撮影。婦人達は昼食の「パエリア」の時間をさいて「ロエバ」へ。買い物は何か気になるなあ。

トレド

半日観光でトレドへ。エル・グレコ（ギリシャ人の事）が画いた通りのいかにも中世の町並みが、回教王国の面影を色濃く残している。

キリスト教、ユダヤ教、回教が仲良く共存したこの町の歴史を、内戦に揺れる旧ユーゴスラビアでも思い出してほしいものだ。

折から年末、狭い町中では何処も同じサッカーファンが集まって、「オーレ、オーレ」とばかり、カステイリア・チームの為に氣勢をあげていた。

歩いていると居酒屋の前の人が手招きをしており、現地ガイド氏は顔身知りらしく「タダ酒を飲みに入るの、適当なところで抜け出す、ついておいで」、とのおいしい話で早速店内へ。店はすっか



トレド遠望

りお祭り騒ぎ、ワインを一人ずつついで廻る、何やらナイフで削っておっさんが手渡ししてくれる、これが鮭の燻製とかで結構なお味。素朴で暖かい人達。

お祭りは爆発だ

十二月三十一日夜。かねてツァー雑誌では是非一度は行って見る様にと書かれていたマドリッドのニューイヤーパーティ。アテネ、パリ、ニューヨークでも経験があり、面白そうだと同行者を募る。寅とK先生の夫妻、中年男性二人の六人で若い

人は不参加。中年者は古い先短いから何でも見ておかねばなあ。

場所は市の中心部で、里程元標のあるお江戸日本橋にあたるプエルタ・デル・ソル（太陽の門、略してソル）。車は規制で現場近くには入れないので一決して歩き。日中経路を確認していたのだが深夜の事とて見事に路に迷い、お年寄りとおぼしき（外人の年はわからんわい）二人連れに路をたずねると、彼等もソルへ行くと言う。「お年寄りだからゆっくり



ポルタ・デル・ソル 新年

一緒に行こう」と言い合ったが、何と足が早くこちらが息せき切って追いかける始末。広場が近くなると二人で腕を組み合つてスキップし始めたのには呆然、参つたなあ。

ソルは超満員。早速ブドーを十二粒買つて用意（十二時の鐘を合図に食べ始め、終了迄に食べ終ると幸運が来るとの言い伝え）。だが広場は既に異様な雰囲気。

とにかく爆竹系の火花が凄い、空に打ち上げる、足下に鼠火花を投げつける、シヤンペンを頭からふりかける、フォーム状の泡（洗髪剤か）を振り回す、ひどいのは色付の液をなすりつける。ついにK先生の足下で爆竹が炸裂、何とズボンが焼け焦げて足に火傷。これはたまらんと壁際に非難するが、思いは皆同じで壁にへばりついている。

地元テレビ局の取材班もたちまち泡だらけ、シヤンペンだらけ、見れば用意周到にビニール雨具に身を包んでいる。ニユーイヤーと同時に可愛い女の子にでも抱きつかれるかと思つたが、同行の某氏が婆さんに抱きつかれただけ、残念だなあ。岡本太郎じゃないが「お祭りは爆発だ」、あれ一寸違つたか。

セビリア

セビリアは「アンダルシアの華」。早朝アトーチヤ駅から新幹線アベでセビリアに向かう。駅は新しくてさながら大規模な温室の様だが、朝、駅周辺で気丈な添乗員嬢も危険な目にあつたらしい、スペインも安心出来ない。新幹線自体は驚くほどの事はないが、マドリッド、セビリア間を二時間半一寸で来れるのは有難い。同行のT氏夫人が車内販売で人形を買い求める、聞けば日本でも評判の人形とか。「どなたへのお土産ですか」と聞くと、これが愛犬のお土産。なんでもお宅を訪ねるお客さんが、お犬ちゃんにお土産を持つて来ないと、犬ちゃん機嫌が悪いとか。どこかの国の政治家に似ているなあ。

セビリアは芸術の舞台。モツアルトの「フィガロの結婚」、「ドンジョバンニ」、或は「セビリアの理髪師」、メリメの「カルメン」など。また同時にセビリア万博も行われ、現在も施設を一部活用しており元気なK先生は疲れも見せず見学に。

カルメンが働いていた煙草工場（現在は大学）、闘牛場、コロンブスの墓のあ

る「カテドラル」、回教の「アルカサル」、「エスパリーニア広場」には、コロンブスの出港や、イスラム教からのレコンキスタが画かれているし、白鳩の集まる「マリア・ルイサ公園」、「黄金の塔」、「ヒラルダの塔」。見る所は多く時間は少ない。



ユダヤ人街 ミスター王大人とWho?

オレ、グワッパ

タンゴの名曲に「オレ、グワッパ」がある。古い蓄音機やレコードのコレクターであつた北電の支店長によれば、「い

、ぞ、ねえちゃん」というほどの意味だとの事。サッカーですっかり有名となった「オーレ、オーレ」はフラメンコの掛け声に使われる。

さて本場アンダルシアはセビリアのフラメンコは流石に迫力満点。出演のダンサーも国内一流。かつてマドリッドで、カルメンが投げたアカシアならぬバラを売りつけられ、ダンサーに投げたのとは違った。

アンダルシア担当の日本人ガイドもスペインが永く、案内書の日本語版を担当する優秀な人だったが、男性舞踏手の一人を指して「猿の惑星」と言ったのには思わず吹き出した。言えてる！本人の写真がないのが残念。

コルドバ

回教王国の首都だったコルドバも魅力ある街だが、足を早めて回教寺院メスキータだけにしたい。キリスト教教会を二百年かけて増改築しているので、内部の柱は時代毎に異なっており、その巨大さは最盛時には二万五千人が礼拝出来たと言う。再びキリスト教国となって、中央部を破壊して二百四十年かけてカテドラルを作っている。この情熱には日本人は

かなわない。

グラナダ

ギターの曲などであまりにも有名な「アルハンブラ宮殿」、アランプラと言うのが正しい発音らしいが、附属の庭園ともども度々写真などで見ていると、初めて来た気がしないくらいなので案内はカット。



グラナダで乾杯

こゝでの現地人ガイドが「カワサキ」氏。日本人ガイドがニヤニヤしながら、どんな人会ってみればわかると言う。

長身、美男の彼は四分の一日本人の血が入っているとの事。各国語に堪能で日本語も素晴らしく、数々のギャグを連発して我々を大いにわかせた。ギャルには「キャベツ頭」、「東京ジュリアナお立ち台」、クイズで「そこで問題、奈良の大仏の高さと、大仏殿の高さは」などなど。後輩のガイドは「カワサキ」氏を見掛けるとコソコソ逃げ出す。これを指さして、「彼は昼間はガイド、夜の商売はポンビキ」と言いたい放題。寅をつかまえて、「お友達、アエランスが必要ね」と、自分の帽子をかぶせると何と彼も立派な禿げ頭。しかし話術とギャグは、ニューヨークでボードビリアンをしていたと言うだけあって、流石のものであった。

昔マドリッドで食べた海鮮料理が忘れられず、海のバルセロナは時間がないとの事で、一同合議の上グラナダでコースを変更クニニで会食。種類も十種類くらいあり、イワシの稚魚など珍しいものもあったものの、やはり十年前とは味、価格ともくらべものにならないなあ。

モンセラ

バルセロナの日程を切りつめてお目当のモンセラへ。国道から見るモンセラは

「鋸の山」の名の如く怪岩、奇石で荒々しい。バスは片道やつとくらしいの小道を九十九折で喘ぎながら登っていく。

そもそもはビレネー山脈に近いリポールのサンタマリア修道院の出事として始まったが、市中の俗化した教会とは異なり、霊場と言う雰囲気のみなぎっており、色々な伝説がある「黒い聖母」と、世界最古の「少年聖歌隊」で知られている。



モンセラ

中庭壁画にも多くのレリーフがあるが、その中にモンテ・カッシーノ（イタリア戦線最大の激戦地）、モン・サンミッシェル（フランス、干潮時島まで海中に道が出来る）の地名が刻んであり、現地人がガイドに聞くと姉妹修道院であるとか。フランシスコ・ザビエルの名があつたが、当院で修行したことがあるとの事。

素朴な売店では、山の蜂蜜（蜂の巣が

ついている）、修道院で作られた多くの果実酒、中にはアニス系統でギリシャの「ウゾ」の様に水を加えると白濁するものまである。

バルセロナ

帰り道で下の方を見ると自動車が傾いて崖の下に落ちている、聞けばたまに落ちる事があるとか。

短期間に目一杯欲ばつたので、バルセロナは駆け足、昼食は公園で弁当を食べながらの奮闘。オリンピック競技場へ向かうモンジュイックの丘の道は相当きつく、女子マラソンのデッドヒートが目につく。

街並のガウディ作「バトリョー邸」「ミラー邸」などはバスの窓から、同じ作者の「グエール公園」は一寸怪獣ランドの様な気がしないでもない。

最大の観もの「サクラダ・ファミリア教会」は、既に百年を費やして、順調にいつてもあと二百年はかゝる筈で、日本人の発想とは程遠い。「生誕のファサード」は、ガウディの思想技術がそのまゝ出てくるが、裏面に当たる「受難のファサード」は全く別の非常に現代的な彫刻で飾られており、これから二百年別々の

作家が別々の発想をもつてファサード、塔を作つてゆくとしたなら、これがガウディの作品といえるのだろうかと素朴な疑問が湧いてくる。塔に上るエレベーターがあり多くの人は登つたが、高所恐怖症の寅は敬遠、あとで聞くと塔の間の通路には鉄材を使つていないとの事、何事もなく良かつたなあ。

アデイオス、エスパニーア

スペインは本当に見る所が多い。そして各々の地方、カタルーニア、バスク、アンダルシアなど自治独立を訴える地方が多く、独自の文化、言語を主張している。イスラム、ユダヤ、カトリックの宗教、文化が或は共存し、時には他を破壊して別の文化を成立させている。アンダルシアだけをとってみても、コルドバ、セビリア、グラナダ、各々を一日二日で見廻ることは全く残念でもあり、無謀な事だと痛感させられる。

かつて東欧旅行をご一緒した、在外駐在の永い御夫妻が既に南スペイン、コスタ・デル・ソル（太陽の海岸）を終の棲み家として設計を立てた気がわかる気がする。何時の日か腰を落ちつけてスペインを訪れる日を夢みて、アデイオス、エスパニーア。

親交会旅行会 ゴルフ

安藤修一

(本庄医院)

霧雨煙る室蘭をあとに、ラベンダー觀賞とゴルフツアーのため、富良野プリンスホテルに向かう。道中雨模様であったが、富良野近くになると青空も見え、天候良好となる。

宴会が盛りあがったところ、翌日のゴルフ組合せと、馬券ならぬ人券投票の枠番発表。続いて人券投票の発売、各自二、三口求めるが、注目を浴びたのが遠藤孝二郎先生、付合いに、例のニコニコスマイルで、下馬評にも耳を傾けず、ある組にボンと二口……。

夜はマジヤンと市中トリンケン探訪との組あり。しかし、明日のコンペが気になるのか、適当なところで引き揚げたようだ。

翌朝薄曇り、高原のため少々肌寒いが、ゴルフには悪くない。この富良野プリンスホテルは、スキーシーズン以外で

も、リゾートライフをエンジョイできるようにと、プール・テニスコート・ゴルフ場など施設。ゴルフ場はアーノルドパーマー設計によるゴルフコースとして名高い。コースは一見やさしそうに感じても、積極果敢なプレーをしなければならぬし、また高度なテクニクが要求されたりする面白いコースとのことです。

隣のテニスコートより、ギャル達の楽しそうなお声が聞こえてくる。一組 児玉・斎藤(修他)・森川各先生の一見まじめ組、二組、鴨井(清成)・神島(茂)

各先生と私のチャランポラン組、三組、神島(章)・皆川(芳)・畠山・三村(博) 各先生チクリ・チクリ型の毒舌組。

八時頃インスタート、一組、各自もくもくとやっている様子、二組、早撃ちマツクの鴨井先生、学研タイプスタンスの神島(茂)先生、ボートと寝不足ぎみの私とマイペースでプレー。三組、室蘭市医師会ゴルフの名プレーヤー組は、普段ならプレーが早い人ばかりなのに、何故か本日は遅れがちである。足の引つ張りあいをしているのではないかと思われる。

後半アウトに入り、途中より雨がポツリ・ポツリと降ったりやんだり。このコ

ースはクリークがところどころにあり面白い。

アウトの九番ロングホール、ここもクリークあり。一組目が三打でクリークをねらっていたところと思う。私の二打目、クリークを越すので強打したら、うまくいきすぎ、児玉先生の後方に落ちた。後を振り向かれたようだ。後ほど知ったのだが、これがスコアーに影響したのかダボであったとか。因に私はトリプルボギーでした。

十九番ホールでのビールを傾けながらの昼食時の話では、一位安藤、二位最終九番ホールでダブルボギーを打たれた児玉先生、三位皆川(芳)・森川・斎藤(修) 各先生、帰路のバスで表彰あり。

トトカルチョ・勝人投票では、あの遠藤先生が見事二口大当たりでした。バスの中は寝息とラベンダーの香りに満ち、帰蘭した。

医師親文会親睦旅行

小杉修一

(室蘭市医師会事務局)

恒例の親交会の親睦旅行は、七月九日・十日に、例年ですと、七月の第一週の
場合が多いようですが、ラベンダーの開
花に合わせて第二週に行なわれました。

午後一時、室蘭市役所を出発、室蘭・
登別インターから高速に入り、樽前と輪
厚で休憩、午後五時過ぎに富良野に到着
しました。天候は、出発時はあいにくの
雨模様で、その後も降ったり止んだりで
したが、緑の中に銀色に輝く富良野プリ
ンスホテルに着く頃には、雨も上がりま
した。ホテルのロビーは、さすがにラベ
ンダーの最盛期と言われるだけあって、
ヒトヒトヒト。

午後六時より、ホテル内で宴会が始ま
りました。今年の旅行参加者数は十六名
と少ないため、テーブルも分かれずに話
が弾み、八時三十分ころお開きとなりま
した。二次会は、夜の街を散策される先
生、またマージャン組など……。富
良野の夜を満喫された先生も多いのでは
ないでしょうか。

さて、七月十日朝、前日から気になっ
ていた天気は、薄曇り。今日一日何とか
持ちそうです。ゴルフ組は、ホテルに隣
接したコースで、八時十分スタート。観
光組はというと、九時三十分に出発なの
で、のんびりムード……。

観光の最初の目的地は、倉本聰の「北
の国から」の舞台を訪ねるということで
麓郷の森です。素朴な丸太小屋がちよっ
と懐かしい感じがします。

続いて、富良野ワインハウスで、早目
の昼食をし、藤紫色のラベンダーと西洋
タンポポ？を眺めながら、ワイン工場へ
向かいます。職員の方の説明によると、
ワイン工場も近い将来改築され、一方通
行の巡回路ができるとのこと。ワインの
お味はというと、甘味が少なくまろやか
な口あたり、大変おいしくいただけまし
た。

バスは、山部自然公園、続いてチーズ
工房へ。ここでは、手作りバター教室が
あるとのこと、乳しほりの体験コーナ
ーでは珍妙な手つきの観光者も……。

午後二時過ぎにホテルでゴルフ組と合
流後、観光の予定の最後の目的地ラベン

ダーの森に向かいます。ただ、残念なが
ら、花は五分咲き程度、来週こそ最盛期
でしょうか。それでも、〇〇先生の表現
をお借りすると、「胸が締め付けられる
ような紫」とのこと。「やっぱり、〇〇
先生はロマンチストですね。」との声も
……。

帰路は、滝川までは少し渋滞気味でし
たが、予想していたほどでもなく、砂川
のハイウェイオアシス館に立ち寄り、途
中から降り出した雨の中、そういえば前
に旭岳方面の旅行の時も室蘭に近づくに
つれて雨だったなあなどと考えているう
ちに、一層雨の強くなった室蘭に着きま
した。



新 会 員

親交会入会に当たって

高 橋 基 夫

(新日鐵室蘭総合病院)

昭和五十九年四月に当時の田辺教授に命じられ、新日鐵病院の外科長に着任しましてから十年が過ぎました。この間、東室蘭自体は若干人口が減った以外特に変わっていない様に思いますが、病院は少なからず様変わりした様に感じます。新日鐵病院が人・建物共に世代交代の時期に当たっていた事に由るのでしょう。いつの時代もそうであったのでしょうか、いつも暇なく次から次と起きる問題に追いまくられながら過ぎた様に思います。私は昭和二十一年東胆振の早来町の生まれで、高校まで苫小牧に住んでいました。昭和四十七年に弘前大学を卒業し、

同年北大第2外科に入局しております。弘前時代は丁度大学紛争の頃でしたが、政治向きの話にはついてゆけず、かと言って学校にもあまり行かずで一体何をしていたのか記憶が定かではありません。少し首を突っ込んだ医学部ラグビー部は今年で創部三十周年となり、私がいた頃は高校生チームにも負ける事がありました。が、嬉しい事に最近では強くなり東北地区の学生リーグ一部に昇格し、又、東医体でも例年上位にいる様です。

入局した頃の北大2外は杉江教授の下に田辺先生、黒島先生、磯松先生(現新日鐵健康管理センター長)、川上先生(現新日鐵病院長)が各グループのヘッドにおり、ほぼ外科の全領域をカバーしておりました。私は消化器グループに入り、食道、臍胆道系、門亢症、小児外科を主に学びました。小児外科には特に熱を上げ、杉江教授のお許しを戴き、国立小児病院外科(当時は秋山洋医長、前鹿大教授)に行かせて戴き、帰局後、この方面は2外関連病院を中心に出張手術をし貴重な経験を積む事が出来ました。現在は消化器癌を中心に手術をしておりますが、新日鐵病院着任時は研修医であつ

た奥芝先生(現北大2外講師)と二人切りであった事を考えますと、今の川上院長を含め六人体制にも隔世の感があります。

さて、仕事以外では最近ゴルフの練習場通いをする様にして居りますが、これは万年ブービーを脱却せんが為で、仲々その成果は上がりません。もう一つはゴルフ同様に達しない英会話をこの六月から院内で七人程集まり(二三人は上手なのですが他は同じ)勉強して居ります。傍目から見ますと多分言語障害者の集いの様に映るでしょう。この二つは出来るだけ早く人並みのレベルに達したいものだと考えていますが、さてどうなりますか。

以上、とりとめもない紹介となりましたが永年御世話になっております室蘭市医師会、親交会の諸先生に厚く御礼申し上げ、入会の挨拶に代えさせて戴きます。

自己紹介



堀 尾 昌 司
(堀尾医院)

平成六年七月より、登別市富士町の堀尾医院で父と共に診療を始め、同時に室蘭市医師親交会の仲間入りをさせて頂きました。昭和三十年七月二日苫小牧市生まれ。父は昭和四十三年より当地で内科医院を開業している堀尾行彦です。

昭和五十五年旭川医科大学医学部二期卒業後、同大外科第一講座に入局。市立釧路総合病院外科、留萌市立総合病院外科勤務を経て、旭川医大第一外科助手時代には恩師久保良彦教授のご指導のもとに血管外科の研究に従事しておりました。学位論文は「自家静脈グラフトの内皮細胞脱落及び再生についての基礎的、臨床的検討」というテーマで、その仕事はイヌ大動脈へのグラフト移植と、走査電子顕微鏡による摘出グラフトの観察というものでした。電顕のブラウン管に写るミ

クロの世界に舞い降りて、フィブリンと血球だらけの血管内面という広大な荒野を何時間も歩き回り、生き残って内臓の再生に必死に挑んでいる十ミクロン程度の内皮細胞達の様々な姿を見た時のいとしさに似た感動は忘れ難いものでした。

学位取得後は札幌に転居し、開業に向けて札幌整形外科循環器科病院、水島胃腸科クリニックにて整形外科、消化器内科を研修の後、現在に至って居ります。

趣味は、中々大学時代はアマチュア無線同好会(電話級)、準硬式野球部、合唱サークル(バス担当)、社会人となつてからはスキー同好会、スキューバダイビング(積丹の海底でウニを肴に魚達との会食交歓会は楽しかったです)、サツカー(札幌社会人七部リーグ)、カラオケ、社交ダンスと多彩なレパートリーを誇っております。来年はゴルフ等にも挑戦したいと思っております。当会の活動にも積極的に参加させて頂きたいと存じますので何とぞよろしくお願いいたします。

親交会のおもな行事

○受賞祝賀会及び忘年パーティ

平成五年十二月九日

於 ホテルサンルート室蘭

○平成六年度定期総会・懇親会

平成六年五月十九日

於 ホテルサンルート室蘭

○親睦旅行

平成六年七月九日・十日

於 富良野方面

○秋の行楽会

平成六年十月十九日

於 ビア・キャビン エレガ

編集室へのお便り

この度は「波久鳥」十四号をお送り下さいまして誠に有り難うございました。当院での研究資料として大いに活用させていただきます。

厚くお礼申し上げます。

貴会のますますの御発展を心より祈念致します。

登別市登別東町三一九

北海道大学医学部附属病院

登別分院

阿岸 祐幸

(五・十二・二十)

拝啓 時下益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびは、下記刊行物を御寄贈下さいましてありがたく厚く御礼申し上げます。

貴重な研究資料として永く保存し利用させていただきます。

なお、今後とも発行の折は御恵送くだ

さいますようお願い申し上げます。

砂川市西四条二丁目一番一号

砂川市立病院

院長 南須原 浩一

(五・十二・二十一)

波久鳥御送りいただき有り難うございました。毎回なつかしく拝読しております。編集の加藤先生をはじめ皆様の御努力に敬意を表します。

静岡市大谷三八〇六一九二

一方井 卓四郎

(五・十二・二十二)

今年もあとわずか、波久鳥十四号御恵送いただき誠に有り難うございます。

「歴史的日本製鋼所部長住宅讃歌」は形は違いますが、小生明治三十年代に建てられた木造のボロ家に棲み付いての三代目ですので少し共感を覚えました。

又、上田先生の文中にある「西洋坊主」とは伊達市の竜泉氏のことかと思っていました。

室蘭市幕西町一番一号

稲月 螢介

(五・十二・二十五)

今年も残り少なくなりました。

波久鳥御恵送下さりまして有り難うございました。私に蘭中お若かった先生の御子様が皆様御医者になられ活躍しておられる御様子に時代を感じさせられました。特に辻先生の杜宅風景は一人感無量でございました。一時住んでおりましたもので当時の事が彷彿と思い浮かび懐かしき一夜でした。早速佛佛前にも供えました。主人もさぞ喜んで拝見してる事でしょう。

いつも変わらぬ御厚情を感謝しつつ

かしこ

水戸市千波町三九五一二

松岡 志げ子

(五・十二・二十八)

立春も過ぎながら未だ余り芳しくない日々が続いて居ります。

過日 室蘭登別総合健診センター創立十周年記念式典へのお招きをいただき、久し振りで第二の故郷とも謂うべき御地へ参上することが出来ました。其の節、原田先生や二、三の先生方と親交会々誌「波久島」の話なども出まして、「波久島」にも関係があったことだし、是非お忘れなく送っていただきたいと申し上げたのですが、早速七日付けで十四号を御恵送下さり、洵に有り難うございました。衷心より御禮申し上げます。

加藤先生を始めとする諸先生の御文章を早速拝読し、夫々に感銘を深く致しました。

私は昨年三月末、定年延長三回を強いられました。漸やく任務を終えて、専門違いの病院の管理運営をやらされて居ります。二十年余の単身赴任から毎日自宅での生活になりましたが、何かリズムが合わない気持ちが続々で、時に名誉院長査察と診療援助の名目で第三の故郷「稚内」を訪れるのが、楽しみで居ります。

室蘭市医師会また親交会の御隆昌ご活

躍を心から祈念し、「波久島」ご惠贈の御札言上と致します。

編集委員の先生方に宜しくお伝え下さいますよう……

平成六年二月九日

小国親久

室蘭市医師会・親交会

会長 斎藤修弥 先生

札幌市中央区宮の森一条

十五丁目一番十五号

小国 親久

(六・二・九)

会 員 異 動

平成5年10月～平成6年10月

年・月	事 由	氏 名	医療機関名
6・1	入 会	吉 井 大 介	愛生病院
6・1	入 会	高 橋 基 夫	新日鐵室蘭総合病院
6・1	逝 去	村 上 匡	市立室蘭総合病院
6・1	入 会	堀 尾 昌 司	堀尾医院
6・3	退 会	勝 俣 哲 男	(札幌市)
6・6	入 会	近 藤 吉 宏	市立室蘭総合病院
6・10	逝 去	高 橋 ハ ル	高橋医院
6・10	逝 去	福 永 文 二	福永医院

編集後記

昨年の米さわぎが嘘の様な日本の夏でした。医学生の際にもあの様な暑い夏を経験した様に思いますが（試験に迫まぐられたためではない）、気象庁観測史上もつとも暑い夏でありました。

残暑の厳しさに、秋はもう来ないのではないかとも思い始めましたが、季節は正しく巡り、冬はもう目前です。我が家の庭の木々も、みすばらしくあります。が立派に紅葉しております。

一年に一回発行されるこの波久鳥にもそのような季節のうつろいを感じるのには私一人でありましょうか。

昨今の低金利時代にあつて真面目な編集委員は迫り来る波久鳥無用論に脅えているところですが、長老大岩先生語るところの超長老長田先生の思い出の中に、波久鳥創刊の頃の様子が記されておりました。改めて昔の人は偉かったなあと感じ入ります。と同時にこの灯を消さないよう頑張らなければならないを新たにいたします。

今号もベテランの諸先生の活躍が目立ちましたが、新会員欄をみますと有望な

新人がまだまだ埋もれているのではないかと期待されます。

原稿料こそ出ませんが、誰でも参加できる趣味の文芸雑誌？ですから思いがけない先生の登場を小生いつも楽しみにしております。

それにしても毎回お馴染みの上田智夫先生、加藤先生の才能には恐れ入ります。山本先生の論客ぶりも相変わらずで興味深く読ませていただきました。世界旅行はしたいけれどインドはちよつとねと思つておりましたが米澤先生によれば終着駅だそうですので、まずは無難なヨーロッパに行つてみたいものです。

藤兼先生には昔日の帝国大学内科学教授の回診について語っていただきました。親交会もタレントが多くて、新人作家にはなかなか敷居が高いようにも思うのですが、若者には若者の物語がある？

寄稿を切にお願いいたします。さて、今号の企画覆面座談会はいかがでしたでしょうか。せっかく覆面で語るのですから「まだまだおとなしすぎるんでないの」と過激な発言で編集後記を終わらせていただきます。

斎藤甲斐之助 記

「波久鳥」十五号編集委員

事務局
斎藤 甲斐之助
高橋 則夫
小杉 修一
加藤 治良
村井 乙
澤山 豊
上田 智夫
大久保 洋平
三村 博通
丸田 浩

親交会誌 波久鳥

発行日 平成六年十二月一日

発行所 室蘭市医師親交会

印刷所 室蘭印刷株式会社